

令和6年度

千葉県教育研究会
生活科・総合的な学習教育研究協議会
長生大会

研究主題

はばたけ！未来を創る子どもたち
～探究を見つめなおし 探究を創造する～

長生大会主題

人・もの・ことに積極的に関わり、
未来に向かって学び続ける子どもの育成

期日 令和6年11月28日(木) 13:00～16:30
会場 睦沢町立睦沢小学校

記念講演

演題「地域と関わる生活科・総合的な学習の時間のあり方」

文部科学省初等中等教育局 教育課程課

教科調査官 齋藤 博伸 先生

主催 千葉県教育研究会
千葉県教育研究会生活科教育部会
千葉県教育研究会総合的な学習部会
長生教育研究会生活科・総合的な学習部会

後援 千葉県教育委員会
茂原市教育委員会 一宮町教育委員会 睦沢町教育委員会 長生村教育委員会
白子町教育委員会 長柄町教育委員会 長南町教育委員会
千葉県小学校校長会

目次

会場図

I あいさつ

睦沢町教育委員会教育長	鶴澤 智	1
千葉県教育研究会生活科部会長	藤枝 尚子	2
千葉県教育研究会総合的な学習部会長	石川 一義	3
長生教育研究会会長	吉野 広隆	4

II 大会要項

III 記念講演

演題「地域と関わる生活科・総合的な学習の時間のあり方」

講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 齋藤 博伸 様

IV 研究概要

長生教育研究会 生活科・総合的な学習部会について

「人・もの・ことに積極的に関わり、未来に向かって学び続ける子どもの育成」

睦沢町立睦沢小学校研究概要

V 学習指導案

7月1日展開 学習指導案・実践

生活科部会（第1学年1組）

総合的な学習の時間部会（第4学年2組）

総合的な学習の時間部会（第5学年1組）

11月28日展開 学習指導案

生活科部会（第1学年2組）

総合的な学習の時間部会（第4学年1組）

総合的な学習の時間部会（第5学年2組）

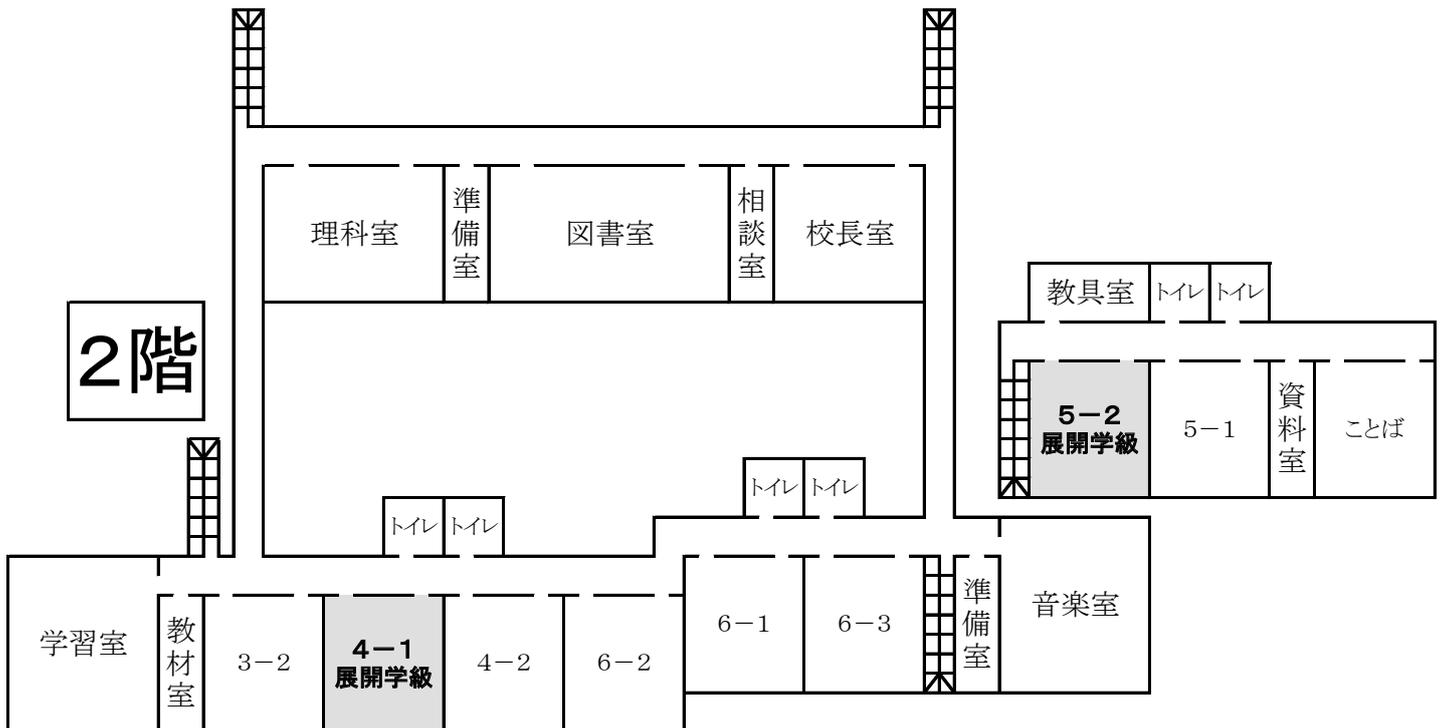
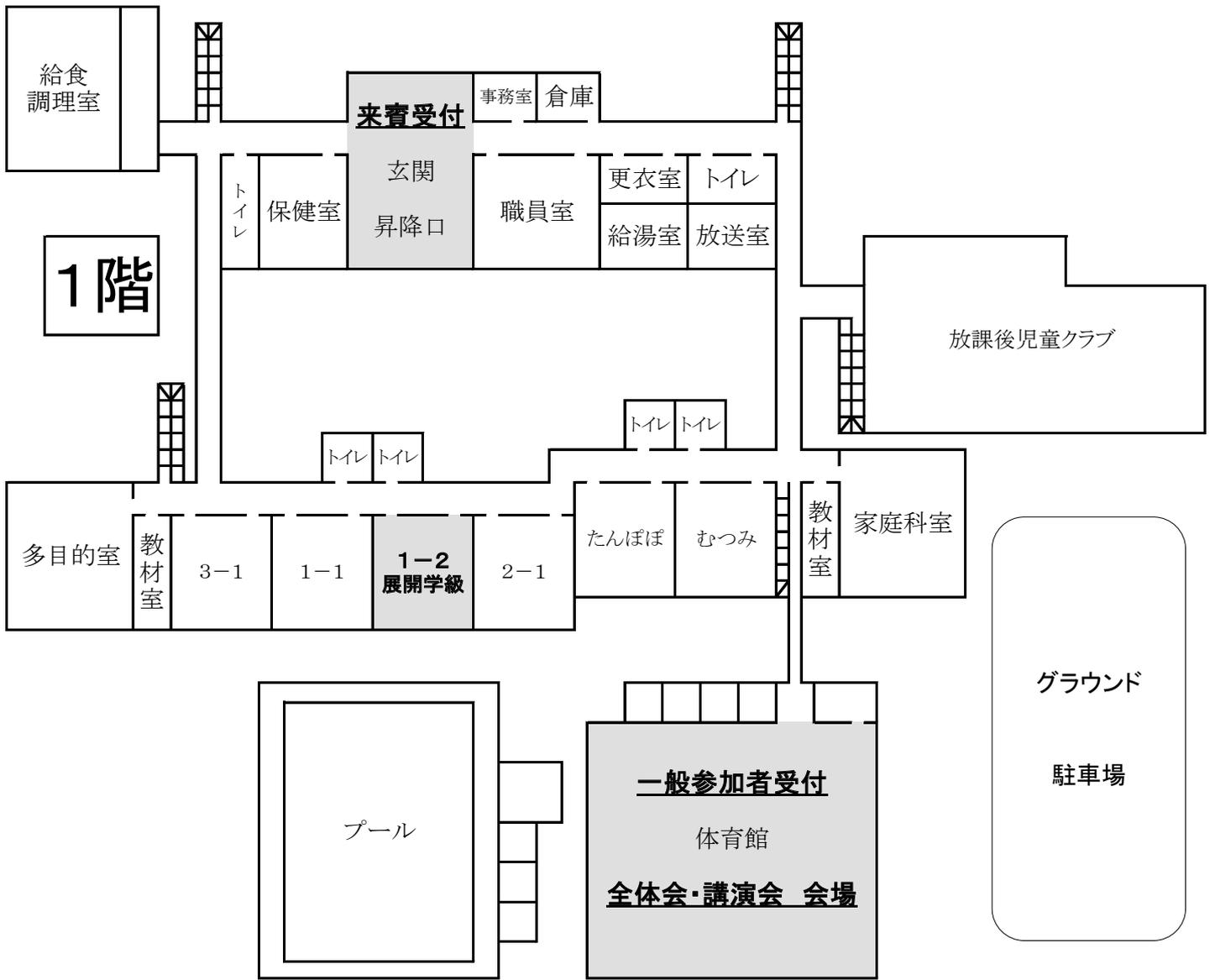
VI 大会運営関係資料

睦沢小学校職員名簿

大会実行委員名簿

編集後記

睦沢小学校 会場案内図



I あいさつ

ご挨拶

睦沢町教育委員会
教育長 鵜澤 智

令和6年度千葉県教育研究会生活科・総合的な学習教育研究協議会長生大会が睦沢町において開催されますこと、心からお祝い申し上げます。また、県内各地から多くの皆様にご参加いただきましたことに対しまして感謝申し上げます。

さて、総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしています。また、低学年におけるスタートカリキュラムは、すべての教科等において生活科を中心とした取り組みとなるよう規定されています。つまりこれからの時代においてますます重要な役割を果たすのが生活科・総合的な学習の時間であると思います。

本町では「郷土を誇りに思う心と人間力・社会力の育成および生涯にわたる幅広い学びの推進」を教育の基本理念とし、園小中一貫教育により、子供たちが「自ら一步をあゆみだす15歳」に成長することを目標に学校教育に取り組んでいます。

特に、小中学校では、「系統的・横断的な指導によるコミュニケーション能力の育成を中心として」総合的な学習の時間を中心に取り組みを進めています。

今回の生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会長生大会が、睦沢小学校を会場に開催されますことは、睦沢小学校のこれまでの取り組みをまとめ、発表させていただき、またとない機会であり、同時に、現在の生活科や総合的な学習の時間のあり方や今後の方向性について共通理解を図るための貴重な場としていただけるのではないかと期待しています。

結びに、本大会開催にあたりご尽力を頂きました千葉県教育研究会をはじめ全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、千葉県そして長生地区の生活科・総合的な学習の時間教育の益々の発展を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

子供たち一人一人の資質・能力を育み未来へつながる生活科

千葉県教育研究会生活科部会

会 長 藤 枝 尚 子

令和6年度千葉県教育研究会生活科・総合的な学習教育研究協議会長生大会が睦沢町立睦沢小学校において、大勢の方々にご参加をいただき盛大に開催されますこと、心より嬉しく思いますとともに厚く御礼申し上げます。

また、千葉県の生活科・総合的な学習教育の充実に向け、日頃から授業研究に取り組み、よりよい教育活動の充実にご尽力されていることに、深く敬意を表します。

さて、子供たちを取り巻く環境は、少子化・高度情報化・家族形態の多様化・グローバル化に急速な進展等により刻々と変化し、予測困難な時代を迎えています。このような状況を踏まえ、生活科教育においては、『活動や体験を通して、どのような「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指すのかが具体的になるよう見直すこと』『各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行すること』等が明記されています。

本部会の研究主題「はばたけ！未来を創る子供たち」は、予測できない変化に、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を発揮し、子供たち一人一人の資質・能力を育んでいきたいと考えています。また、副題の「探究」は生活科・総合的な学習の根幹として推進してきたものであり、これまで実践してきた学習能力を土台とし、改善を図りたいと考えています。

長生大会の取組も、幼児期との学びをつなぐ授業実践や、他教科・他学年との接続を意識したカリキュラムから、様々な場面で進んで学ぶ児童の姿が見られ、一人一人の資質・能力がより一層確かなものとなると確信しております。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりまして、ご尽力いただいた千葉県総合的な学習部会長の石川 一義様、大会に向けて計画・授業展開等の実践を積み上げてこられました睦沢町立睦沢小学校長 塩田 茂嗣様をはじめとする睦沢小学校教職員の皆様並びにご指導いただきましたすべての皆様に深く感謝いたします。また、大会運営にご協力いただきましたすべての皆様方にも心より感謝申し上げます。

令和6年度研究協議会開催によせて

千葉県教育研究会総合的な学習部会
部会長 石川 一 義

令和6年度千葉県教育研究会生活科・総合的な学習教育研究協議会の開催にあたり、総合的な学習部会を代表してご挨拶申し上げます。

感染症流行に伴う教育活動の休止、縮小の時期を経てそれまでの通常の学校生活に近づいてから1年と半年ほどが経過しました。感染症対策期間中は難しかった地域と関わりながらの探究活動が再び可能となり、県内各小中学校の実状に応じた学習が進められていることと存じます。本日の研究協議会では睦沢町立睦沢小学校を会場として、身近な地域の中から探究課題を設定し、探究のサイクルにそった学習活動が展開されることを大変うれしく思います。

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしています。ここ数年、入学試験に探究型選考を取り入れる大学が増えてきたことや、東京都渋谷区立小中学校が区をあげて探究学習の授業時間数を増やすなど「探究」は現行の学習指導要領の中でも重要なキーワードとなり、総合的な学習の時間はこれからの時代においてますます重要な役割を果たすことが求められています。本研究部の研究主題「はばたけ！未来を創る子どもたち ～探究を見つめなおし 探究を創造する～」はまさに今日の学習活動に必要とされているものです。そこで県内各小中学校の児童・生徒が生き生きと取り組める探究活動を計画・実践していくためのサポートをしていくことが本研究部の使命であり、ひいては千葉県の総合的な学習の時間の質の向上につながると考えます。本日の研究協議会はその役割を十二分に果たすものと確信しております。

結びに、令和6年度千葉県教育研究会生活科・総合的な学習教育研究協議会会長生大会を開催するにあたりまして、長生地区各教育委員会の全面的なバックアップのもと、長生教育研究会の生活科・総合的な学習部会の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。関係諸団体の皆様のご支援とご協力に深く感謝申し上げますとともに、長生教育研究会総合的な学習部会の益々の発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

子どもたちの輝く未来に向けて

長生教育研究会

会長 吉野広隆

令和6年度千葉県教育研究会生活科・総合的な学習教育研究協議会長生大会が開催されますこと、誠におめでとうございます。日々の教育活動の中での研究協議や授業実践等、関係者の皆様の御努力に敬意を表したいと存じます。

長生教育研究会では、児童生徒の秘めた能力を引き出し、よりよい成長を促すため、教職員の資質向上に取り組んでいます。各研究部会では、組織として人材育成を図り、研究成果を地域に還元することで、社会情勢や児童生徒の変化に柔軟に対応した教育が提供できるよう研修を進めているところです。長生教育研究会は、全体共通の研修会の機会だけでなく、部会ごとに特色のある独自の自主的な研修も実施しています。これらの取組の内容と成果は、毎年発行される「長生の教育」にまとめることで、すべての教職員に共通理解を図っています。

本年度の長生大会の研究主題は、「はばたけ！未来を創る子どもたち～探究を見つめなおし 探究を創造する～」です。長生教育研究会生活科・総合的な学習研究部では、「人・もの・ことに積極的に関わり、未来に向かって学び続ける子どもの育成」を研究主題として、これまで様々な方々からの御指導をいただきながら、研鑽を積んでまいりました。時代の移り変わりとともに、社会情勢の変化や価値観の多様化、生活に影響を与える新たな製品やシステムの開発等、今後も想定していなかった様々な場面が予想されます。今回のテーマで「未来」をイメージしているように、そんな不透明な未来に向けて、自分の判断で困難に立ち向かえる課題解決力を身に付けることが求められています。我々の使命は、希望を抱きながら、よりよい社会を形成していく人材を育成することだと感じています。今回の研究協議が、皆様にとって今後の指導の参考となる意義深い時間となれば幸いです。

長生大会の開催にあたりまして、千葉県教育研究会生活科・総合的な学習部会の役員の皆様、長生教育研究会生活科・総合的な学習研究部の皆様、その他関係された多くの皆様のお力添えに感謝申し上げます。最後になりましたが、千葉県教育研究会のさらなる発展と千葉県の子どもたちの輝かしい未来を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

II 大会要項

令和6年度 千葉県教育研究会生活科・総合的な学習教育研究協議会長生大会

大会要項

1 期日 令和6年11月28日(木)

2 会場 睦沢町立睦沢小学校(開会行事・記念講演)

3 主催 千葉県教育研究会
千葉県教育研究会生活科教育部会
千葉県教育研究会総合的な学習部会
長生教育研究会生活科・総合的な学習部会

4 後援 千葉県教育委員会
茂原市教育委員会 一宮町教育委員会 睦沢町教育委員会 長生村教育委員会
白子町教育委員会 長柄町教育委員会 長南町教育委員会
千葉県小学校校長会

5 日程

13:00 13:30 14:15 14:30 15:00 15:10 16:30

受付	授業公開	休憩	開会行事	休憩	記念講演
----	------	----	------	----	------

6 記念講演

講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 齋藤 博伸 様
演題 「地域と関わる生活科・総合的な学習の時間のあり方」

7 授業公開

学級	授業者	内容	展開場所
1年2組	喜多見 花帆 教諭	あきとなかよし	1年2組教室
4年1組	佐藤 章雄 教諭	よりよい町づくり大作戦!!	4年1組教室
5年2組	新田 さやか 教諭	わが町の稲作、PR大作戦!	5年2組教室

Ⅲ 記念講演

IV 研究概要

長生教育研究会 生活科・総合的な学習部会について

長生大会主題

人・もの・ことに積極的に関わり、
未来に向かって学び続ける子どもの育成

睦沢町立睦沢小学校の研究について

1 研究主題

探究し続けることができる児童の育成

—地域とかがわる生活科・総合的な学習の時間の活動を通して—

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

現在、教育の潮流はコンテンツ・ベースからコンピテンション・ベースへと移行し、「何を知っているか」から、「どのように問題解決を成し遂げるのか」という学習過程を重視する学びが求められている。OECD が作成したラーニングコンパス(学びの羅針盤)では、児童生徒に必要な資質・能力が描かれ、一人一人が学びの羅針盤をもち、自分の進むべき道を選択して歩いていくことを目指している。また、全国学力・学習状況調査の分析等において、総合的な学習の時間が、学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとして国際的にも高く評価されている。さらに、探究プロセスの中でも「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取組を充実させることが、一人一人の資質・能力の向上につながると期待されている。

学習指導要領平成29年改訂では、生活科で活動や体験を一層重視し、気づきの質を高めるとともに、幼児期の教育との連携を図ることなどについて充実を図った。活動や体験を通して気付いたことを基に考え、その気づきを確かなものとし、新たな気づきを得て、多様に表現する活動を重視している。また、総合的な学習の時間は、学校が地域や学校・児童生徒の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすることと同時に、探究的な学習や協働的な学習とすることが重要である。特に探究的な学習を実現するための探究のプロセス(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)を発展的に繰り返していくことを重視してきた。

(2) 本校の教育目標から

人間力・社会力を身に付けた 輝きいっぱい 睦沢の子
○楽しさいっぱい ○やさしさいっぱい ○元気いっぱい

睦沢町では、平成30年度に町の小学校2校が統合したことを受けて、園小中一貫教育基本方針が作成され、令和6年度に「豊かな人間力や社会力を身に付け、自ら一步をあゆみ出す15歳の育成—系統的・横断的な指導によるコミュニケーション能力の育成を中心として—」のテーマのもと、研究を進めてきた。睦沢町教育基本計画にもとづき「郷土を誇りに人間力の育成と健幸づくりのまち」をめざし、園小中学校において、0歳から15歳まで途切れることのない教育を実践し、本町の子どもたちに備えたい「人間力」と「社会力」の醸成を図ってきた。

また、本町の教育では、学習指導要領において育成をめざす資質・能力の3つを念頭におき、園小中

一貫教育において「人間力」と「社会力」の育成を加味して国際社会で活躍できる若者や郷土の発展に貢献できる人材(人財)の育成に努めてきた。さらに、園小中学校で育てたいコミュニケーション能力を系統立て、国語科と教科横断的な学習を進めてきた。総合的な学習の時間では、「睦沢ふるさと学習」として、地域づくりを学習テーマとし、地域を住みよい睦沢町にしていくための活動を、地域の大人と一緒にを行い、町づくりに貢献してきた。

その上で学校教育目標が設定され、上記「人間力・社会力を身に付けた 輝きいっぱい睦沢の子」をもとに、目指す児童像として「楽しさいっぱい【知】」、「やさしいっぱい【徳】」、「元気いっぱい【体】」の3点を掲げている。中でも「楽しさいっぱい【知】」の中に示されている「各教科等で学んだ知識や技能を『睦沢ふるさと学習』等で活用する」を中心に、探究し続けられる児童の育成を目指している。

(3) 児童の実態

本校では、これまでに生活科および総合的な学習の時間を通して「睦沢ふるさと学習」として、地域づくりを学習テーマとし、地域を住みよい町にしていくための活動を、地域の大人と一緒にを行い町づくりに携わってきた。

本校では、睦沢町に対しての愛着を感じている児童多い。一方、社会参画の意識が高い児童は少なかった。さらに、総合的な学習の時間にはこれまで、児童から「もっと続けて学びたい」という意見が多く出た。そのため、これまで多くの課題に取り組み探究活動を行ってきた学習過程から、より深く学べるよう探究のプロセスを繰り返し行う探究活動への移行が必要であると考えた。以上の今日的課題や、児童の実態を受けて、本主題を設定した。

3 研究目標

地域を題材にした探究的な活動が充実するための単元構成の工夫を明らかにする。

4 研究の視点

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決するための「過程」を繰り返すことで、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成する。

本校では昨年度から、これまで育ててきたコミュニケーション能力を生かし、「ふるさと学習」の探究的な学びをさらに実現するためのプロセス(「ふれる」「選ぶ」「深める」)による検証を行ってきた。児童は「睦沢ふるさと学習」の第1段階「ふれる」として、自ら課題を設定し、地域人材の協力を得て情報を集め、整理・分析し、まとめて表現することによって、ふるさとに「ふれる」ことになる。そこで生まれる新たな課題への追究が第2段階「選ぶ」となる。第1段階でふれたことによって生まれた新たな疑問から、自ら追究したい課題を選び、探究活動を進める。情報を収集し、様々な思考ツールを利用しながら整理・分析を繰り返すことで、児童にも「自ら課題を見つけ、解決していく力」を身に付けさせたいと考え。さらに、学びを「深める」第3段階へと移

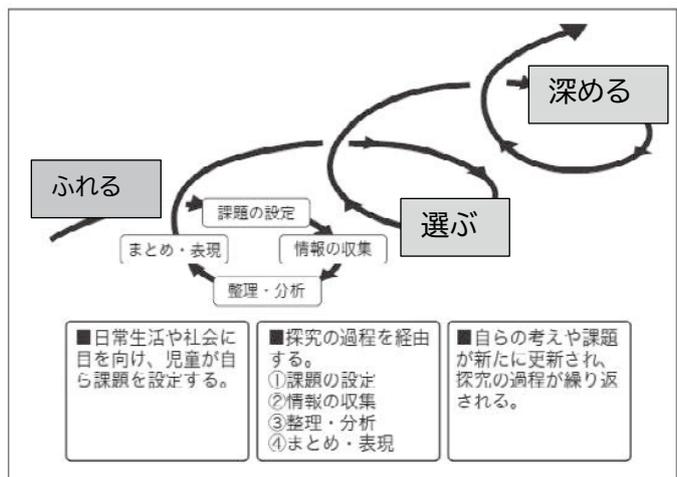


図1 探究的な学習における児童の姿
(「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」を基に作成)

る。第2段階のまとめ・表現を行う中で課題の焦点化を行い、児童が「深めたい」と考える課題を新たに見出す。地域の人材と協働し、探究活動を行うことで、互いのよさを生かしながら、よりよく課題を解決できる資質・能力を備えた児童の育成をめざしたい。図1で示したように、「ふれる」「選ぶ」「深める」プロセスを行うことで、総合的な学習の時間で育てたい3つの資質・能力を育てる道筋となり得ると考え、本主題を設定した。

5 研究の内容・方法

(1) 研究の内容

①年間指導計画の精選を行い、探究活動を深める。

○総合的な学習の時間 各学年のテーマに沿った探究活動の見直し

- ・第3学年「睦沢はすてきなところ」(身近な環境・特産物)
- ・第4学年「睦沢を住みやすい街に」(福祉)
- ・第5学年「睦沢の魅力を発見しよう」(米作り)
- ・第6学年「未来の睦沢を考えよう」(キャリア教育)

○生活科 スタート・カリキュラムの見直し

②アンケート調査の実施(事前・事後の検証)

○全校児童によるシビックプライド尺度調査(小学生版)の実施

睦沢町に対する「愛着」、「持続願望」、「社会参画」、「アイデンティティ」意識の調査を行う。

③他教科との関連についての見直し

学年	単元名	内容	教科・単元名	
3年	睦沢はすてきなところ	【産業】 ・睦沢小のまわりの環境について調べ、まとめたことを発表する。	○国語科 ・もっと知りたい、友だちのこと ・ローマ字 ○社会科 ・わたしのまち、みんなのまち ・はたらく人とわたしたちの暮らし	○算数科 ・表とグラフ ○道徳科 ・ふるしき(伝統文化の尊重)
4年	睦沢を住みやすい街に	【福祉】 ・福祉について学び、よりよい町づくりのために考えたり実行したりすることについて発信する。	○国語科 ・聞き取りメモのくふう ○社会科 ・千葉県の発展につくした人々	○算数科 ・折れ線グラフ ・がい数とその計算 ・調べ方と整理の仕方 ○道徳科 ・「思いやり」って ・思いやりのかたち
5年	睦沢の魅力を発見しよう	【米作り】 ・稲作について学び、睦沢米の魅力を発信する。	○国語科 ・きいて、きいて、きいてみよう ○社会科 ・わたしたちの生活と食料生産 ・情報を生かす産業 ○理科 ・植物の発芽と成長	○算数科 ・平均とその利用 ・単位量あたりの大きさ ・割合のグラフ ○家庭科 ・生活を見つめて・食べて元気に ○道徳科 ・一ふみ十年 ・ようこそ菅島へ

6年	未来の睦沢を考えよう	【未来の町づくり】 ・睦沢町の事業所について調べ、町づくりについて考える。	○国語科 ・聞いて、考えを深めよう ・いちばん大事なものは ○社会科 ・わたしたちの生活と政治	○算数科 ・データの整理と活用 ○道徳科 ・「働く」ってどういうこと？
----	------------	--	---	--

④振り返りシートを活用し、課題とめあてを明確にする。

- ・全校で統一した振り返りシートの活用を図ることで、児童が課題とめあてを明確に行うことができるようにした。また、指導・支援する際にもワークシートの簡素化を図ることで児童個々の進捗状況の確認をしやすくした。

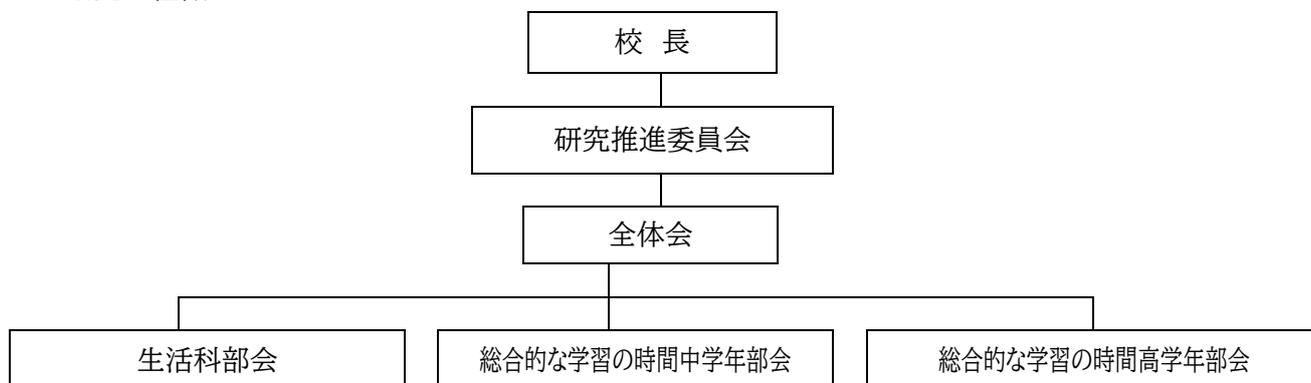
⑤検証授業の実施

	日付	教科等	展開学級「单元名」
第1回 検証授業	7月1日(月)	生活科	第1学年1組 「なつとなかよし」
		総合的な学習の時間	第4学年2組 「よりよい町づくり大作戦！」
			第5学年1組 「わが町の稲作、PR大作戦！」
第2回 検証授業	11月28日(木)	生活科	第1学年2組 「あきとなかよし」
		総合的な学習の時間	第4学年1組 「よりよい町づくり大作戦!!」
			第5学年2組 「わが町の稲作、PR大作戦！」

(2) 研究の方法

- ア 文献などを通じた理論研究
- イ 東上総教育事務所指導主事からの指導・助言
- ウ 児童の実態把握
- エ 授業研究の実施

6 研究の組織



7 研究の経過

月	日付	内 容
4月	4日(木)	第1回 校内研究推進委員会
	11日(木)	年間指導計画の見直し・授業展開者決定
	18日(木)	校内研究全体会(今年度の見通しについて)
5月	2日(木)	第2回 校内研究推進委員会(授業研究会指導案の作成について)
	28日(火)	文献研修
	30日(木)	他教科との関連についての見直し
6月	6日(木)	第3回 研究推進委員会
	13日(木)	文献研修
	20日(木)	指導案校内全体報告会
	26日(水)	生活科・総合的な学習の時間指導案検討会(東上総教育事務所指導主事)
7月	1日(月)	第1回 授業展開
	4日(木)	授業検討会
	11日(木)	第4回 研究推進委員会
	25日(木)	授業検討会および、指導案展開部作成
	30日(火)	生活科指導案検討会(東上総教育事務所指導主事)
8月	2日(金)	総合的な学習の時間指導案検討会(東上総教育事務所指導主事)
	26日(月)	生活科指導案検討会(東上総教育事務所指導主事)
	28日(水)	総合的な学習の時間指導案検討会(東上総教育事務所指導主事)
9月	4日(水)	総合的な学習の時間指導案検討会(東上総教育事務所指導主事)
	12日(木)	第5回 校内研究全体会
	18日(水)	指導案検討会
	26日(木)	指導案検討会
10月	10日(木)	指導案校正
	17日(木)	第6回 研究推進委員会 指導案提出
	24日(木)	第6回 校内研全体会
11月	7日(木)	第7回 研究推進委員会
	14日(木)	第7回 校内研全体会(公開研究会準備)
	21日(木)	公開研究会準備
	28日(木)	千葉県教育研究会 生活科・総合的な学習教育研究協議会 公開研究会
12月	5日(木)	第8回 研究推進委員会
	12日(木)	校内研究会(授業記録まとめ、成果とまとめ)
	19日(木)	校内研究会(成果とまとめ)
1月	9日(木)	第9回 研究推進委員会
	16日(木)	校内研究会(成果と課題まとめ提出)
	30日(木)	校内推進委員会(来年度の研究について)
2月	13日(木)	第8回 校内研究全体会(来年度の研究について)
	28日(金)	第9回 校内研究全体会(総合的な学習の時間年間指導計画見直しと提出について①)
3月	6日(木)	校内研紀要印刷・作成、個人研修
	13日(木)	第10回 校内研究全体会(総合的な学習の時間年間指導計画見直しについて②)

総合的な学習の時間 年間指導計画

年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第3学年	<p>④すてきな睦沢PR大作戦Ⅰ(60)</p> <p><内容> 睦沢小の周りの環境を調べる。</p> <p><活動> ・まっ白い広場に行き、自分たちにできそうなことを考える。 ・まっ白い広場の創設にあたっての思いを知る。 ・まっ白い広場のために自分たちにできそうなことを考え、調べる。 ・調べたことをもとにまとめる。 ・まとめたことを発表する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「睦沢を住みやすい街に」〈睦沢ふるさと学習〉</p> <p><内容> 調べた内容から環境についてさらに防災について詳しく調べ、伝え、広める。</p> <p><活動> ・まっ白い広場で特産物を使ったビザ作りをする。 ・特産物生産者の思いをインタビューする。 ・まっ白い広場のPRの仕方について考える。 ・川の環境について調べる。 ・小学校の周りの防災について考える。 ・まとめたものをPRできるように伝え広める。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>⑤パソコン名人になろう。(10)</p> <p><情報> <内容> ローマ字入力の仕方を知り、情報モラルを身に付ける。</p> <p><活動> ・ローマ字入力の仕方を確認し、練習を行う。 ・情報モラルについて理解する。</p>										
第4学年	<p>③アログラミングにちようせんしようⅠ(10)</p> <p><情報> <内容> アログラミングの仕方を知る。</p> <p><活動> ・アログラミングソフトで方法を知る。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>④よい町づくり大作戦Ⅰ(60)</p> <p><内容> ・福祉について、調べる。</p> <p><活動> ・障害をもつ人との関りを通して、自分の生活を見つめ直す。 ・地域の高齢者との関りを通して、自分の生活を見つめ直す。 ・地域を探検し、学区の危険な場所について調べる。 ・自分たちの地域のためにできることがないか、考える。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「睦沢を住みやすい街に」〈睦沢ふるさと学習〉</p> <p><内容> ・調べたことをそれぞれの方法でまとめ、中間発表会をする。</p> <p><活動> ・ポスターの作成 ・プレゼンテーションを行う。 ・役場に行って伝える。 ・ホームページに掲載する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><内容> 活動報告会を開く</p> <p><活動> ・高齢者へのプレゼンテーションを行う。 ・作成した資料を伝え広める。 ・暮らしやすい町づくりについて考える。</p>										
第5学年	<p>②睦沢の魅力を見つめよう。(10)</p> <p><内容> ・睦沢の魅力調べ、学習の見直しをもつ。</p> <p><活動> ・田植えについて調べる。 ・稲の生育について調べる。 ・稲作に関わる人々についてその思いを知る。 ・稲刈りをする。 ・稲作について学んだことをまとめる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「睦沢の魅力を見よう」〈睦沢ふるさと学習〉</p> <p><内容> ・収穫した米のPR方法について課題をつかみ、それぞれの方法でまとめる。</p> <p><活動> ・収穫した米を使った料理を考える。 ・米の活用方法を考える。 ・米を広告する方法を考える。 ・プレゼンテーションをする。 ・調べたことを様々な方法で発信する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③アログラミングに挑戦しようⅡ(10)</p> <p><情報> <内容> アログラミングの仕方を知ろう</p> <p><活動> ・情報モラル教育を受ける。 ・アログラミングを自分で行う。</p>										
第6学年	<p>①睦沢の魅力、PR大作戦Ⅰ(45)</p> <p><内容> 睦沢町で働く人々について調べよう。</p> <p><活動> ・睦沢町にはどのような仕事をしている人かいるのか調べる。 ・睦沢町で起業した人々、睦沢町に昔から住み、働く人々について知る。 ・睦沢町で働く人々にインタビューをする。 ・仕事体験を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><内容> ・まとめた内容をPRする方法を考える。</p> <p><活動> ・まとめる。 ・パンフレットにする。 ・動画にまとめる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「未来の睦沢を考えよう」〈睦沢ふるさと学習〉</p> <p><内容> ・調べた内容をPRする方法を考える。</p> <p><活動> ・報告会に向けて準備をする。 ・リハーサルをする。 ・リハーサルの改善点について話し合う。 ・中間発表会をする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②睦沢の魅力、PR大作戦Ⅲ(8)</p> <p><内容> 探究活動報告会をする。</p> <p><活動> ・パンフレットを配付する。 ・それぞれの事業所に新たな提案をする。 ・ホームページに掲載する。 ・未来の睦沢町を構想する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③アログラミングに挑戦しようⅢ(10)</p> <p><情報> <内容> アログラミングの技術を生かす</p> <p><活動> ・アログラミングしてロボット等動かす活動をする。</p>										

V 學習指導案

7月1日展開

學習指導案・実践

第1学年1組 生活科指導案

指導者 石井 真理子

1 単元名 なつとなかよし

2 単元の目標

夏の自然と関わる活動を通して、夏の特徴や夏と春との違いを見付けたり、夏の遊びを工夫して考えたりして、夏の自然のようすや季節によって生活のようすが変わること気付くとともに、友達と仲良く遊んだり、自分の生活を楽しくしたりすることができるようにする。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は学習指導要領の主たる内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」や、(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を受けて設定されたものである。

4月に入学式を迎えた1年生の児童は、学校生活にも慣れ、先生や友達、学校の周りの自然と意欲的に関わろうとするようになってきている。生活科の学習ではこれまでに、校庭探検で、春の校庭の様子を観察したり、アサガオの種をまいて世話をしたりするなど身近な自然に触れる活動をしてきた。また、見付けたことを絵に表したり、アサガオの様子を観察して絵や文に表したりする活動もしてきた。

本単元の「なつとなかよし」は、4つの小単元から構成されている。はじめに「なつのおもいでをふりかえろう」では、これまでの経験から夏について知っていることを発表し合い、夏にしたい遊びについて学習していく見通しをもたせる。次に「なつのこうていにててみよう」では、校庭で五感を使って夏探しをすることで、春からの変化に気付くことができると考える。「なつのあそびをたのしもう」では、夏らしい遊びについて考え、友達と楽しく遊ぶ。また、遊んだり、作成したりする過程を繰り返し、さらによい夏の遊びについて試行錯誤していく。最後に「おきにいりのなつをつたえよう」では、校庭で見つけたものや遊んだ経験をもとに絵や文、立体で表す活動を進めていく。

そこで、本単元では、児童が学校やその周りで、季節の変化を感じ取り、思う存分に夏にひたって友達と一緒に遊んだり、楽しい遊びを工夫したり、友達の輪を広げたりできるようにしていきたい。特に、児童は、初めて季節の違いについて学習していくので、季節のさまざまな変化に着目させ、それらに気付くことができるように支援していきたい。また、ここでの活動や体験から生まれる児童の感動や気付きを大切にしながら単元を展開したい。活動に際しては、身近な自然や自分が関わっている生き物などの春から夏への変化の様子に気付くように働きかけ、児童のつぶやきや思いに共感するよう心掛けたい。本単元の夏の遊びを繰り返す活動を通して、季節の遊びを楽しむ心を育てたい。また、単元が終わった後には、初めての夏休みがあるため、家庭でもこの単元を通して学んだことをもう一度やってみたり、保護者に見せたりなど、主体的な活動が続いていくようにさせたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、就学前のこども園などでの生活の中で、季節ごとの行事に触れたり、季節に沿った遊びをしたりしてきている。実態調査(令和6年5月23日、19名に実施)の設問①「春は、どんな季節ですか。」や④「夏は、どんな季節ですか。」については、多少の地球温暖化の影響が出ているようだが、「春は暖かいけれど、過ごしやすい。」や、「夏は汗をかいて暑い。」など、肌に触

れる温度差は感じ取っているようである。また、設問⑧「夏に使う道具には、どんなものがありますか。」の夏に見られる扇風機、エアコンといった機械が多く挙げられ、「涼しくなりたい」という思いがあることが伺える。

しかし、校庭の植物や生き物の様子については、正確に捉えている児童もいるが、無回答も見られる。設問②「春の校庭の植物は、どんな様子ですか。」、③「春にみられる生き物の名前。」、⑤「夏の校庭の植物は、どんな様子ですか。」、⑥「夏にみられる生き物の名前。」の回答を見ると、春と夏だけでなく、秋に見られる植物や生き物なども混在している認識が伺える。設問⑦「夏に友達とどんな遊びをしたいですか。」の夏の遊びについては、プール遊びを挙げている児童が多く、夏の暑さから水に親しみながら、元気に水遊びを楽しもうとしている。しかし、他の遊びについては、あまり考えが思い浮かばない状況であった。

この実態調査から、季節ごとの特徴を捉えることに課題があると言える。そこで、本単元では、春で行った校庭散策を夏も行い、春との違いに十分着目させてから単元を開始させたい。そのために、夏の校庭散策をするだけでなく、春と夏の違いを校庭マップに表し、比較できるようにさせる。また、春と夏の生き物の違いに着目させるために、児童がいつでも手に取れるところに本コーナーを設置し、季節の違いに気付かせるようにする。また、改めて本を手にする時間を設けることで、児童が春と夏の違いを自分で吸収できるようにする。児童が自ら得た知識の活用を図り、自信をもって活動できるようにしたい。

(3) 指導観

本単元では、春と夏の違いを感じ取り、そこから夏の特徴や良さを生かした遊びを創り出すという活動を行うため、まずは、春と夏の違いを十分に捉えさせることが大切である。そのために、校庭マップを作成し、それを生かした活動を行う。校庭マップ作成では、3つの手立てを講じる。1つ目は、夏も春と同じ場所を巡り、その違いに気付くことである。同じ場所を比較することで、季節ごとの違いを見付けやすくする。2つ目は、季節ごとの植物、生き物の種類と様子について記録を取り、伝え合うことである。3つ目は、視覚的に分かりやすく作成することである。言葉だけでなく、絵や写真に表すことで、季節の様子を十分に捉えることができるようにしたい。

4 単元の目標と評価規準および指導計画

(1) 評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		夏の自然と関わる活動を通して、夏の自然のようすや季節によって生活のようすが変わること気付いている。	夏の自然と関わる活動を通して、夏の特徴や夏と春との違いを見付けたり、夏の遊びを工夫して考えたりしている。	夏の自然と関わる活動を通して、友達と仲良く遊んだり、自分の生活を楽しくしたりしようとしている。
小単元における評価規準	1			①幼児期や日常生活での体験を振り返りながら、夏の自然の特徴を予想したり、してみたいことを考えたりしている。
	2	①夏の校庭の自然のようすや特徴、季節の移り変わりに気付いている。	①諸感覚を生かして、夏の特徴や春と夏との違いを見付けたり、考えたりしている。	

3 4	②遊びの楽しさや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。		
5 6		②予想したり、試したりしながら、遊びに使う物を作ったり、遊びを工夫したりしている。	
7			①夏の遊びを楽しみたいという思いをもって、夏の自然と触れ合ったり、友達と関わりながら遊んだりしようとしている。
8	①季節によって生活や遊びが変化することや、夏の自然を生かして遊ぶことの楽しさや良さに気付いている。		
9		①春、夏で遊んだことについて振り返り、振り返りカードにかいている。	

(2) 指導と評価の計画 (9時間扱い)

小単元名 (時数)		学習活動	知	思	態	評価方法
見 い だ す	1 なつのおもいでをふりかえろう (本時1/9)	・夏について知っていることやこれまで体験したことのある遊びを出し合いながら、夏の思い出をふりかえる。 ・なつとなかよしの活動計画を立てる。			①	発言 つぶやき 行動観察 紹介カード
自 分 で 取 り 組 む	2 なつのこうていにてみよう	・春の校庭マップと同じ場所を散策し、春と夏の違いを見付けたり、夏のお気に入りの場所を見付けたりして、夏の校庭マップを作成する。	①	①		発言 つぶやき 行動観察 学習カード
広 げ 深 め る	3 4 なつのおそびをかえよう	・これまでの経験から夏には、どのような遊びをすると楽しめるか考えて、遊びをつくる。 ・遊びをつくる中で、課題意識をもたせる。	②			発言 つぶやき 行動観察 学習カード
	5 6 なつのおそびパワーアップ大作戦!	・できた遊びを試し、創ったり、遊んだりしてもっと楽しく遊ぶために試行錯誤を繰り返す。		②		発言 つぶやき 行動観察 学習カード

	7 なつのおそびをたのしもう	・夏の遊びを楽しみ、遊びや遊びに使う物を改良したり、遊び方を工夫したりしながら、夏を感じる。			②	発言 つぶやき 行動観察 学習カード
まとめあげる	8 おきにいのなつをつたえよう	・これまでの活動を振り返り、お気に入りの夏として伝えたいこと決める。	③			発言 つぶやき 行動観察 学習カード
	9 これまでをふりかえろう	・春から夏までの過ごしてきた中で、遊びや学習の写真や動画、生活科の学習の記録カードを見て、どんなことを経験してきたのかを振り返る。			③	発言 つぶやき 行動観察 学習カード

5 研究の視点との関連

視点 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決するための「過程」を繰り返すことで、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成する。

本単元の導入の段階では、春の思い出を振り返り、夏という季節に主体的に取り組めるように自分たちの活動を作り上げていく。夏の思い出を振り返り、楽しかった夏の遊びなどを想起させ、暑い夏をもっと楽しく、仲良く過ごすために、「なつとなかよし大作戦」のための計画を立てる。

夏の遊びを考える段階では、「つくる→試す・比べる→つくり直す」といった活動を通して、自ら課題意識をもち、試行錯誤しながら解決の方法を見いだす力を身に付けさせたい。作業をする場、試してみる場の設定を工夫すること、活動する時間の確保、校庭マップや本などの資料を十分に用意し、主体的な活動ができるように環境を整えていくようにしたい。そのために、授業の終わりには、必ず振り返りを行い、常に次の活動のめあてが、明確になるようにする。

個別に考えた遊びをしていく中で、同じ遊びを考えた友達と自然に一緒になり、遊びが広がっていくと考える。また、お互いに遊びを比較したり、お互いにアドバイスしたりして、気付きや疑問を共有することで、自分が作って遊びたいものが明確になり、児童なりにそれぞれ課題意識をもつことができるようになる。1年生の児童にとって遊ぶという時間は大切である。活動の時間を十分に確保し、つくる楽しさ、遊ぶ楽しさを十分に味わわせるようにしたい。課題意識をもち、意欲を高め、楽しく活動ができる児童の育成を目指して指導していきたい。

6 本時の指導（1／9）

（1）本時の目標

- 自分が知っている夏の自然の様子や遊びを振り返り、してみたいことを考え、夏探しや夏遊びの計画を進んで立てようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

（2）展開

過程	学習活動と内容（○） 予想される児童の反応（・）	時配 形態	指導上の留意点（○）と支援（※） 評価（◎）及び評価方法	教具 資料
見 い だ す	○入学した頃の自然の様子を写真や音楽で振り返る。 ・桜の花がいっぱい咲いていて、とてもきれいだったよ。 ・校庭探検で、たんぽぽが咲いてたよ。 ・ちょうちよがとんでて、つかまえ	7分	○入学した頃の自然の様子を映像や音楽で振り返り、今の自然の様子と違ったり、変わったりしていることに気付かせることで夏という季節への関心を高めるようにする。	春の様子 の写真 校庭マップ 音楽のCD

	<p>ようとしたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花でかざりをつくったよ。 ・小さくてかわいいお花がたくさん咲いてたよ。 ・音楽の時間に、チューリップやひらいたひらいたの歌を歌ったり、踊ったりしたね。 <p>○本時のめあてを確認する。</p>	3分	○夏について知っていることをできるだけ多く出させることで、これから学習する夏という季節への興味・関心を高めていけるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>③なつとなかよしだいさくせんけいかくをたてよう。</p> </div>				
自分で取り組む	<p>○夏について知っていることや児童一人一人の体験を、ミニ画用紙に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プール遊びをしたこと ・カブトムシをつかまえたこと ・海で砂遊びをしたこと ・暑くて、かき氷を食べたこと ・家族でお祭りに行ったこと 	10分	<p>○夏にちなんだ音楽を流すことで、夏の体験したことが想起しやすいようにする。</p> <p>※進んで取り組んでいる児童には称賛し、なかなか進まない児童には、対話をしながら助言や支援をしていく。</p>	夏の写真 効果音CD ミニ画用紙
広げ深める	<p>○夏に自分の体験したことを友達に伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プールで水遊びをしたよ。 ・海で砂遊びをしたよ。 ・森の中に行って、カブトムシをつかまえたよ。 ・家族でお祭りをして、金魚すくいをしたことがあるよ。 ・暑くてかき氷をつくって食べたよ。 ・外で遊んでいるとき、汗をたくさんかいたよ。 ・土と水でどろ団子をつくったことあるよ。 	10分	<p>※自分の経験を出し惜しみすることなく、多くの児童が自信をもって、伝え合えるように助言する。</p> <p>○児童の体験したことが分かりやすいように、児童のミニ画用紙を「見える図」(ウェビング)に貼ったり操作したりする。話し合いの観点を明確にしてから活動を始められるようにする。</p>	ミニ画用紙 ウェビングにする 台紙
	<p>○「見える図」(ウェビング)からなつとなかよし大作戦計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭探検で春探しをしたから、夏でもやってみたいな。 ・暑くなってきたから、みんなで 	10分	<p>※春に取り組んだ活動経験から、どんな順番で学習を進めていけばよいか考えられるように助言する。</p> <p>○児童が「してみたい」という思いを大切にしながら、計画を立てるようにしていくが、校内でできる</p>	計画をまとめる台紙

<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめあげる</p>	<p>水遊びがしたいな。気持ちよさそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂や土で砂遊びやどろんこ遊びがしたいな。 ・お祭りで見たおもちゃをつくって遊んでみたいな。 <p>○本時の振り返りをし、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏のことについて知っていることを友達に教えたらびっくりしていたよ。 ・みんないろんなことを知っていてすごいな。 ・教えてくれて嬉しかった。 ・友達と水遊びをするの楽しみだな。 ・早く校庭探検したいな。 	<p>5分</p>	<p>ことも考えながら話し合いを進めていく。</p> <p>◎【態】自分が知っている夏の自然の様子や遊びを振り返り、してみたいことを考え、夏探しや夏遊びの計画を進んで立てようとしている。 (発言・つぶやき・行動観察・紹介カード)</p> <p>○話し合いの様子や自分たちで計画を立てられたことを称賛することで、自分のよさや友達のよさにも気付くことができるようにする。</p> <p>○次時の活動について知らせることで、今後の活動への意欲を高めるようにする。</p>
--	--	-----------	--

1 単元名 よりよい町づくり大作戦！！

2 単元の目標

自分が生活している地域のよさや問題点を見つけることを通して、睦沢町の福祉について主体的に情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する過程を繰り返すことで、よりよい町にするために自分たちにできることを考えたり行動したりする。

3 単元設定の理由

(1) 学びのつながり

児童はこれまでに第3学年で、「睦沢はすてきなところ」として町の特産物について調べ、生産者や保護者の助言を得ながら睦沢町の魅力としてまとめ、発信した。それによって、地域への理解を深めてきた。第4学年では、「睦沢を住みやすい街に」として、睦沢町をよりよい町にするにはどうしたらよいのかを、「福祉」の視点から考えさせ、地域の方々やよりよい町づくりに貢献したいと願う児童の育成をめざしていく。

(2) 児童の実態

実態調査（令和6年6月4日、23名に実施）の結果から、質問①「睦沢町は住みやすいと思う」質問②「睦沢町が好きだ」という問いには、全児童が肯定的な回答をしていた。質問④「睦沢町にいと安心する感じがする」という問いには90%以上の児童が肯定的な回答をしていた。このことから、第3学年での学習で身に付いたことが現在の生活に役立ち、睦沢町のよいところをたくさん学ぶことができたからだと考えられる。また、質問⑤「睦沢町にずっと住み続けたい」質問⑬「地域社会の一員としての自分にできることはあるかしっかり考えている」という問いには、80%以上の児童が肯定的な回答をしていた。睦沢町が好き、睦沢町のために何かしたいということから、肯定的な回答が多かったと考えられる。福祉についてのアンケートでは、質問①「福祉のイメージ」を聞いたところ、高齢者や障害のある人を思い浮かべた児童が多かった。しかし、質問②「福祉活動をしている団体を知っていますか」や質問④「町で取り組んでいる福祉」という質問には、90%の児童が「いいえ」と回答していた。

(3) 教材について

睦沢町は、美しい田園風景と里山が広がるあたたかい雰囲気を持ち、歴史的建造物や文化的遺産も多い。町は、住みやすい環境づくりに促進するべく、高齢者や障害者への福祉の充実に計画的に取り組んでいる。そこで第4学年では、福祉に目を向けて調べ学習を行い、町民が安全かつ安心して生活づくりについて考えさせたい。

4 単元の評価規準

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①探究的な学習過程においてこれまで身に付けた資質・能力を生かしながら、高齢者疑似体験や車いす体験、睦沢町社会福祉協議会の方の話をもとに、課題解決に必要な知識を身に付けようとしている。</p> <p>②探究的な学習過程においてこれまで身に付けた資質・能力を生かしながら、課題解決に必要な技術を身に付けようとしている。</p> <p>③暮らしやすい町は、睦沢町社会福祉協議会の人々の努力や工夫によって支えられていることを理解し、自分の役割に気付いている。</p>	<p>①高齢者疑似体験や車いす体験から感じたことをもとに問いを見出し、課題を設定している。</p> <p>②課題解決に必要な情報を様々な方法で集めている。</p> <p>③課題解決に向けて、情報を整理したり分析したりしている。</p> <p>④各教科で身に付けた資質・能力を生かし、根拠を明らかにして相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現している。</p>	<p>①福祉についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p> <p>②異なる意見や他者の考えを受け入れながら自分らしさを発揮し、協働して学び合おうとしている。</p> <p>③睦沢町社会福祉協議会の方との関わりの中で、自分にできることを見つけ、進んで地域の活動に参画しようとしている。</p>

(2) 指導と評価の計画（20時間扱い）

		小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
ふれる	課題の設定	1 福祉について考えよう。（3）	・福祉についてウェビングし、学習のおおまかなイメージをもつ。			①	ワークシート
			・クラスで作成したウェビングマップから調べたいことを話し合い、今後の見通しをもつ。		①	①	ワークシート
	情報の収集	2 高齢者や車いすの方の生活を体験しよう。（6）	・高齢者や車いすの方の生活について調べ学習をする。		②		ワークシート
			・高齢者疑似体験、車いす体験をする。	①			ワークシート 行動観察
			・ゲストティーチャーとの対話を通し、福祉について考える。	②	②		ワークシート 行動観察
	整理・分析	3 共に生きる社会について考えよう。（4）	・聞いたことや疑似体験をもとにして、誰もが暮らしやすい社会のために、自分にどんなことができるのかを考える。（本時1/4）		③		ワークシート タブレット端末
			・自分のまとめ方について考える。		④	②	ワークシート タブレット端末
	まとめ・表現	4 調べ学習や体験学習を通して学んだことを、これからの生活の中で生かす方法をまとめよう。（7）	・これまで調べてきたことや体験してきたことを自分なりの表現にまとめる。	③	④		発表資料
・学級内でまとめたことを発表する。 ・新たな課題を見いだす。					③	ワークシート 発表資料	

5 研究の視点との関連

視点 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決するための「過程」を繰り返すことで、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成する。

本単元を通して、児童には、睦沢町をよりよい町にするための福祉について主体的に考え、行動できるようになってほしいと考える。

「課題の設定」では、教科横断的な学習として、社会科で「石川倉次」と「点字」をきっかけに、「体の不自由な人」や「高齢者」の生活に目を向けさせる。そして、「福祉」についてウェビンを活用し、今後の学習の見通しをもたせたい。

「情報の収集」では、誰もが暮らしやすい社会を支援する仕組みや人々の存在に気付かせるために調べ学習を行い、社会福祉協議会の方々との交流につなげる。そして、高齢者疑似体験、車いす体験を通して「高齢者は生活をして大変だと思うことがあるのか」「車いすの人が生活をしていく上で苦労することがあるのか」など疑問をもたせたい。児童の想像以上にそれぞれの思いがあることに気付かせるとともに、もっと福祉活動について探究してみたいという意欲をもたせたい。また、社会福祉協議会の方々との交流を通して、「誰もが暮らしやすい社会を目指すために何ができるのか」を考えさせる。本時では、これまでの交流や体験をもとに、思考ツールを活用しながら、友達と対話していく中で自分にできることを課題として見いださせたい。

「整理・分析」では、見いだした課題について調べ学習を行う。また、同じ課題をもった者同士で情報を共有し、自分のまとめたいテーマを決定する。

「まとめ・表現」では、新聞・ポスター・ICT機器で自分の決めたテーマについてまとめ、学級内で発表会を開く。友達の発表や疑問から、地域の福祉に関する施設にも目を向けさせ、「町の福祉に関する施設を調べてみよう」という課題意識をもたせることで第2段階の「選ぶ」段階につなげていきたい。

6 本時の展開（10／20）

（1）本時の目標

誰もが暮らしやすい社会のために、自分にどんなことができるのかを考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

（2）展開

主な学習活動・内容（○）と予想される児童の反応（・）	時配 形態	指導上の留意点（○）と評価（◎）及び評価方法	教材 教具
○前時までの学習をふりかえる。 ○高齢者や車いすの方がどんなことに困っているのかを振り返る。	3分 一斉	○掲示物や大型提示装置を活用し、前時までに調べたことや活動してきたことを視覚的に捉えられるようにし、想起しやすくする。	掲示物 大型提示装置
○学習課題を確認する。	2分 一斉	○見通しをもって活動ができるように、本時の課題を確認する。	
だれもが暮らしやすい社会のために自分にどんなことができるかを考えよう。			

<p>○疑似体験やゲストティーチャーとの対話などを振り返り、自分にできそうなことについて考える。</p> <p>○自分にできそうなことと、相手をしてほしいこと及び相手の願いを2種類の付箋に記入する。 〔ピンクの付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷物を持ってあげたい。 ・席をゆずってあげたい。 ・高齢者や車いすの方のために、エレベーターを使わないようにする。 ・車いすを押してあげたい。 ・声を掛けて、助けてあげる。 ・自転車をじゃまな所に置かない。 <p>〔黄色の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをしてほしい。 ・声を掛けてほしい。 ・急に車いすを押されるとびっくりするので、声を掛けてほしい。 	<p>15分 個別</p> <p>グループ</p>	<p>○どんな視点で話し合えば良いか考えることができるように、KJ法を活用し、話合いの視点について確認をしていく。</p> <p>○ピンクの付箋には自分にできそうなこと、黄色の付箋には相手をしてほしいことや願いを記入させることで、視覚的にも分かりやすく、分類がしやすくなるようにする。</p> <p>○自分にできることを見出すことが難しい児童には、具体的な場面を想起させるよう声掛けをする。</p> <p>○児童が「できそうだ」と感じることを必ずしも相手の望むことと一致しないことに気付かせる。</p> <p>○前時のインタビューの様子を想起させ、困っていそうだったらまず声を掛けるとよいことに気付かせたい。</p> <p>○気付けない児童には、ゲストティーチャーとの対話でのワークシートを想起させるよう助言する。</p>	<p>K J 法の仕方 掲示物 2種類の付箋 ホワイトボード</p>
<p>○出てきた意見から気付いたことを話し合う。</p> <p>○同じ考えを丸で囲んだり、線で結んだりして仲間分けをする。</p>	<p>20分 グループ</p>	<p>○KJ法のよさを生かして、視覚的に捉え望むことの違いがあることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と対話をしていく中で、あいさつをするなど誰でもできることは同じだということに気付くことができるようにさせる。 	
<p>○本時の学習を振り返り、まとめたものを発表する。</p> <p>○グループごとに本時の話合いの内容を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからはあいさつをしたいと思った。 	<p>一斉</p> <p>5分 個別 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで出された意見をまとめ、今後の活動に必要なものを共有する。 ・本時での話合いや見いだしたことを認め、次時の活動に意欲を高める。 <p>◎【思】誰もが暮らしやすい社会のために、自分にどんなことができるのかを考えることができた。</p> <p>(行動観察・ワークシート)</p>	<p>ワークシート</p>

1 単元名 「わが町の稲作、PR大作戦！」

2 単元の目標

地域の稲作について調べたり、睦沢米に携わる人々と協働して取り組んだりする活動を通して、睦沢米に関する具体的な取組について考え、稲作を続ける人々の意図や願いについて理解するとともに、わが町の稲作とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。

3 単元設定の理由

(1) 学びのつながり

児童はこれまでに、第4学年で「睦沢を住みやすい街に」として、「福祉」に視点を置き、睦沢町社会福祉協議会の方の協力を得て、手話での話し方、車椅子・高齢者疑似体験や地域安全マップを自分たちで作成し、地域への理解を深めてきた。第5学年では、「睦沢の魅力を発見しよう」として、「わが町の稲作、PR大作戦！」として、町一番の特産物である米についての学習を進めていく。稲作を通して、将来の自分を見つめ、どのような町づくりを行ってきているのか自ら考えられる児童の育成を目指したい。

(2) 児童の実態

実態調査（令和6年6月3日、23名に実施）の結果から、質問①の「睦沢町に住みやすい」と思っている児童は90%で、質問②の「睦沢町が好きだ」と感じている児童は86%であった。また、質問④の「睦沢町にしていると安心する感じがする」や質問⑥の「睦沢町は大切だと思う」と回答した児童はともに90%であり、肯定的な回答が高い割合を占めた。質問⑤の「地域を良い場所にするためにがんばりたい」と回答した児童が81%であったが「わたしは、地域社会をよりよくすることができると思う」という問⑥に対しては、肯定的な回答をした児童は57%にとどまった。

以上の実態調査の結果から、児童は睦沢町に愛着をもっていることや自分たちにも何かできるのではないかと総合的な学習の時間を通して町づくりへの意欲が高まっている一方で、実際はどうしたらよいかかわらなかつたり、自分には何もできないと思っていたりする児童もいることがうかがえる。また、どの質問に対しても回答が前向きでない児童も数名いる。このような児童は、学習活動を行う場においても、自分の課題意識をもつことができなかつたり、自分の考えが認められず、取り組んでいる活動が他の児童によって行われていたりする傾向が見られる。

そこで、本単元では、だれでも自分の考えを認めてもらえる話し合い活動や自分のやるべき課題と取り組むことがわかる計画を立てさせ、活動に見通しをもたせる。そして、その方向性を貫く探究的な学習になるように、地域の方と協働して授業を実践していきたい。

(3) 教材について

本単元は、本校研究主題である「探究し続けることができる児童の育成—地域と関わる生活科・総合的な学習の時間の活動を通して—」を受けて設定したものである。睦沢小学校では、「将来子どもたちが、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」を育てることを目的として、学校と家庭や地域社会が協働しながら子どもたちを支える「地域総ぐるみ」の教育を行っている。

本単元は、これまでの学習を生かし、「だれに」、「どのようにして」、「どのようなことを」広めたいのか、探究課題を決めるところから学習を進めていく。そして、「より多くの人々に睦沢町のよいところを伝えたい。」という児童の思いを実現するため、睦沢町に馴染みのある「稲作」に着目させる。生産者や米づくりに関わる方をゲストティーチャーとして招き、協働的な学習を行いながら、紙芝居や、ポスター、プレゼンテーションなど、様々な方法で学んだことを発信していく。本単元における探究的な活動を通して、睦沢地域の米づくりについての歴史を感じ、そのよさやそれを守ってきた人の思いや願いに気付き、「自分たちも睦沢の一員」という自覚をもち、自分たちにできることを考え、「睦沢米のよさ」を伝えていくことをねらいとしている。地域の一員として、どうしたら、「睦沢米のよさ」を分かりやすく伝えることができるのかを考えながら活動に取り組むことを通して、自分たちが未来の睦沢を創っていくという思いをもたせていきたい。そのために、「山田会」の方々と稲作体験活動を行ったり、農業協同組合の方々から講話を聞いたりしていく。地域の方と協働的な探究活動を展開していくことは、探究課題の解決につながり、児童の深い学びを実現していくこととなる。

4 単元の評価規準

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①体験活動を通して米づくりの過程や歴史等を理解している。 ②活動を通して調べたり、考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらかつまとめる方法が分かっている。 ③地域の米づくりの魅力と現状について気付いている。	①課題解決に向けて、自分なりの解決方法を考えている。 ②課題解決に向けて必要な情報を、手段を選択して収集している。 ③課題解決に向けて、収集した情報を取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したりしている。 ④プレゼンテーションやポスターセッションなど、調べた内容に応じた適切な方法で表現している。	①米づくりに関わる方々との関わりを見直そうとしている。 ②米づくりに関わる方々と協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。 ③地域の人や友達との交流を通して、学んだことを自分の生活に生かそうとしている。

(2) 指導と評価の計画（全60時間）

	小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法	
ふれる	1 お米について知りたいことを見つけ、学習課題を作ろう。 (3)	・米について知っていることを基にウェビングマップを作成する。		①		ワークシート	
		・作成したウェビングマップから、お米について知りたいことを見つける。		①		ワークシート	
	2 お米について知りたいことを調べたり、米にふれる体験活動をしたりし、お	・お米について知りたいことについて、本やインターネットを使って調べる。			②		ワークシート タブレット端末
		・山田会の方々と田植え体験活動を行う。	①				ワークシート 行動観察

		米博士になろう。 (14)	・社会科と関連させ、米づくりの過程や歴史等を自分なりの方法で調べる。		③		ワークシート 活動計画書 タブレット端末	
			・パケツ稲を管理し、成長を記録する。	②			行動観察 ワークシート	
	整理・分析		・収集した情報を整理し、インタビューで聞きたいことについて考える。 (本時5/14)		③		ワークシート KWLシート	
	情報の収集			・「山田会」の方や農業協同組合の方々から講話を聞いたり、インタビューをしたりしながら、具体的な課題について確認する。		②		ワークシート
				・「山田会」の方々と稲刈り体験を行う。	①			体験活動感想文
				・「山田会」の方々と脱穀や粳摺り体験を行う。	①			作成中の資料 タブレット端末
				・家庭科と関連させ、収穫した米を炊き、試食する。	①			ワークシート
				・「山田会」の方々と精米をして、米づくりの過程をまとめる方法を考える。			②	ワークシート タブレット端末
	整理・分析	3 お米パワーを発信しよう。 (5)	・課題解決に向けてどのような方法でまとめるのか考え、話し合いながら表現する。		②		まとめた資料 タブレット端末	
	まとめ・表現			・田植えの過程を調べたり、体験活動をしたりして、学んだことや気付いたことをプレゼンテーションやポスターセッション、紙芝居などにまとめ、下学年に発表する。	②	④		ワークシート タブレット端末
			・学習活動をふり返り、学んだことを作文にまとめる。	③	④		作文	
選ぶ	課題の設定	1 睦沢の米に着目しよう。 (2)	・地域で作っているお米について調べる。 ・「山田会」に聞きたいことを整理する。	①			ワークシート タブレット端末	
	情報の収集	2 「睦沢米」についてインタビューをしよう。 (2)	・「山田会」の方々にインタビューをして、「睦沢米」についての情報を収集する。		②			
	整理・分析	3 分かったことや気付いたことをもとに整理・分析しよう。 (2)	・調べたり、インタビューをしたりして分かったことや気付いたことについて、グループで話し合う。		③		ワークシート タブレット端末	

	まとめ・表現	4 学年内で情報を共有しよう。 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 分かったことや気付いたことをグループごとに様々な方法でまとめる。 学年内で発表しあいながら、情報を共有し、睦沢米のすばらしさや睦沢米の持つ課題に気付く。 	③	④		まとめた資料 タブレット端末
深める	課題の設定	1 睦沢米をどのように広めたらよいかを考えよう。 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 「山田会」の方々にインタビューをし、分かったことや気付いたことをまとめる。 		③		ワークシート タブレット端末
			<ul style="list-style-type: none"> 睦沢米の持つ魅力や課題等を踏まえ、グループごとにさらに何ができるのか、事業に参画するために考える。 			② ③	ワークシート タブレット端末
	情報の収集	2 考えた企画に沿ってまとめ方を調べよう。 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 考えた企画に沿ってまとめるためには、どのようなことが必要なのか調べる。 	②			ワークシート タブレット端末
			<ul style="list-style-type: none"> 「山田会」の方々と話し合い、よりよい企画にする。 			① ②	ワークシート タブレット端末
			<ul style="list-style-type: none"> 「レシピづくり」「太巻きづくり」「パンフレットづくり」「動画づくり」など、グループに分かれて企画する。 企画した案を「山田会」の方々と協力して、よりよい企画に改善する。 話し合った内容を生かして、よりよい企画に修正する。 	③			ワークシート タブレット端末
整理・分析	3 作成したものを発信しよう。 (10)	<ul style="list-style-type: none"> 職場に行き、レシピを具体的に提案したり、道の駅に行ってパンフレットを置いてもらうように交渉したりする。 			③	ワークシート タブレット端末	
		<ul style="list-style-type: none"> 「レシピづくり」「太巻きづくり」「パンフレットづくり」「動画づくり」など、グループに分かれて企画する。 企画した案を「山田会」の方々と協力して、よりよい企画に改善する。 			②	ワークシート タブレット端末	
	まとめ・表現	4 報告会を開き、活動を振り返ろう。 (11)	<ul style="list-style-type: none"> 報告会を企画する。 発表会に向けて準備する。 発表会の練習を行う。 自分たちの活動を振り返る。 将来に向けての考えをもつ。 		④		ワークシート タブレット端末

5 研究の視点との関連

視点 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決するための「過程」を繰り返すことで、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成する。

本単元では、探究し続ける児童の育成から、探究活動を3段階で設定する。第1段階の「ふれる」では、「お米のパワー再発見」とし、稲作の過程や歴史等について学習する。ここでは、「山田会」の方々や農業協同組合の方々をゲストティーチャーとして招き、田植えから稲刈りまでの体験活動を行ったり、稲作の講話を聞いたりする活動を通して、お米について関心をもたせると共に、実感を持った理解につながる動機づけとしていきたい。また、「バケツ稲」の管理や世話を児童自身に経験させる活動を通して、児童に稲の生長を身近に感じさせたい。さらに、調べた内容に応じて、プレゼンテーションや紙芝居等、様々な方法でまとめ、来年度にもつながられるよう4年生に発表することで、「ふれる」段階のまとめとしたい。

第2段階の「選ぶ」では、「睦沢米の魅力、大発見!」とし、もっと深く知りたいと思った稲作について課題を設定し、睦沢町の米づくりに着目できるような地域で開発しているお米についてグループで調べたり、「山田会」の方々にインタビューをしたりしながら情報を収集していく。そこで分かったことや気付いたことをもとに整理分析し、再度様々な方法によってグループでまとめ、学年内で発表していくことで、睦沢米のすばらしさを知るとともに、睦沢米のもつ課題についても気付かせていきたい。

第3段階の「深める」では、地域のお米を広める社会参画的な活動を行う。「選ぶ」段階の発展として、まずは「山田会」と連携し、会の取組や「これから町のお米の収穫高を上げるにはどうすればよいか」「もっと睦沢町のお米を知ってもらいたい」「睦沢米を使ったレシピを作りたい」など、児童が主体的に学習を進める素地をつくっていききたい。次に、自分の考えた活動の視点を明確にするために活動計画書を書き、それをもとに課題解決に向けて情報の収集や活動に取り組みせたい。

情報の収集の段階では、いくつかのグループに分かれ、調べたことを様々な方法でまとめたり、作ったものを提案したりする活動を行う。「お米キャラクターを募集する」「お店に売り込む」「レシピを作る」、「伝統的な料理を調べる」等、睦沢米を広めるための具体的な活動を進めていく。この活動においても山田会の方々と協働して課題解決していくようにしたい。

整理・分析の段階では、睦沢米を広めるためのパンフレットづくりや、動画作成、考案したレシピをお店に売り込む等の活動を設定する。ここでも「山田会」の方々と協力してパンフレットを作ったり、レシピを工夫したりするなど協働的な学習にしていききたい。また、作ったパンフレットは町の「道の駅むつざわ つどいの郷」に置いてもらうように要望書を提出したり、レシピは近くのお店にメニューとして売り出してもらえよう交渉したりすることにより町づくりに貢献し、ふるさとを愛する心を養い、社会参画することの大切さに気付かせていきたい。

まとめ・表現の段階では、「山田会」の方々や保護者を呼び、活動報告会を行う。これまでの探究活動を振り返り、成果や課題について分析し、プレゼンテーションやポスターセッション、紙芝居等を通してまとめ、発信する活動を取り入れる。自己評価させたり、互いに認め合ったりして、個々の成長をしっかりと感じられるような活動にしていききたい。

6 本時の指導 (12/60)

(1) 本時の目標

収集した情報を整理し、インタビューで聞きたいことについて考えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 展開

主な学習活動・内容 (○) 予想される児童の反応 (・)	時配 形態	指導上の留意点 (○) と 評価 (◎) 及び評価方法	資料
○本時のめあてを知る。 ・前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。 ・学習課題を見出す。	5分 一斉	○今まで学習してきたことをモニターに提示し、振り返らせる。 ○学習課題やKWLシートの活用方法、活動の流れを確認し、本時の見通しをもたせる。	モニター 活動の流れ KWLシート
調べてわかったことを整理して、インタビューで聞きたいことを考えよう。			

<p>○調べてわかったことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お米について調べてわかったことを付箋に書き出す。 <p>○知りたいことについて、グループごとに、1枚のKWLシートに話合い、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話合いの掟」を確認し、KWLシートに書き出した付箋を貼る。 ・もっと知りたいことやインタビューで聞きたいことを付箋に書き出す。 ・KWLシートを活用し、知りたいことについて話合いながら整理する。 ・KWLシートを基に話し合ったことを発表する。 ・他のグループの発表を聞いて、分かったことや気付いたことをワークシートに記入する。 	<p>10分 個別</p> <p>25分 グループ</p> <p>5分 個別</p>	<p>○なかなか付箋に書くことができない児童には、モニターや掲示物等に目を向けさせ、今まで学習したことを基に想起できるように助言する。</p> <p>○シートに付箋を貼る際、内容ごとに分ける等、整理できるようにする。</p> <p>○全員の意見が交換できるように、声かけをする。</p> <p>○「話合いの掟」を活用して、話合い活動が活発に行えるようにする。</p> <p>○国語科「たがいの立場を明確にして、話し合おう」の学習を生かして話し合わせる。</p> <p>○他のグループの内容との共通点や相違点に気づき、整理できるようにする。</p> <p>◎【思】収集した情報を整理し、インタビューで聞きたいことについて考えることができる。 (ワークシート・KWLシート)</p> <p>○本時の活動について振り返り、ワークシートに記入させる。</p> <p>○全体に共有できるように振り返りシートをタブレット端末で写真撮影し、他の児童の考えも知ることができるようにする。</p> <p>○振り返りの内容をテレビに提示する。</p> <p>○自分がどんな力を身に付けたのかを振り返り、次時の活動への意欲につなげる。</p>	<p>「話合いの掟」</p> <p>ワークシート タブレット端末</p>
--	--	--	--

11月28日展開

學習指導案

1 単元名 あきとなかよし

2 単元の目標

秋の自然と関わる活動を通して、秋とその他の季節との違いを見付けることができ、秋の自然のようすや夏から秋への変化がわかり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化に関心をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりする。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領生活科の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」及び(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を受けて設定されたものである。

児童はこれまでにこども園で、秋の自然物を使って工作するなどたくさんの経験をしてきた。小学校に入学してから、校庭を探検することを通して、春の自然に触れ、季節の変化を感じ取ってきた。また、「なつとなかよし」では、校庭や公園、身近な場所で春と夏の違いを感じ取り、夏の特徴を生かした遊びを工夫する活動をしてきた。

本単元「あきとなかよし」では、秋の自然と関わることで、秋の特徴を見付けたり、季節の変化に気付かせたりする。秋を感じられる自然物を使った遊びを通して、友達と協力し合いながら生活する楽しさを味わわせたい。身近な自然から秋探しを行い、夏との違いや、自然物の特徴やよさを見付け、自然と触れ合いながら、自分の生活を楽しくもうとする態度を育てたい。「みんなであきをたのしもう」では、友達と話し合ったり、異年齢と交流したりする活動を通して、友達と協力することの大切さや人と関わることのよさも学ばせたい。

そして、本単元の学習は、第1学年「ふゆとなかよし」、第2学年「とび出せ！町のたんけんたい」の学習に発展していく。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、いろいろなことに興味をもって学習に取り組んだり、休み時間には友達と元気に遊んだりして楽しく過ごしている。

実態調査(令和6年7月19日 18名に調査実施)では、「秋はどんな季節ですか。」について大半の児童が、「夏よりも涼しい」と回答している。「夏から秋になって変わるところはありますか。」では、44%の児童が「ある」と回答している。しかし、「秋はどのような様子ですか。」では、「葉の色が黄色になる・変わる」「葉が落ちる」など具体的に回答した児童は27%に留まった。

実態調査の結果から、秋は、夏の暑さに比べて涼しくなっていくことを肌で感じており、夏とは違う季節であることに気付いている児童が多数いる。しかし、紅葉や落葉といった秋の様子や、どんぐりやまつぼっくり、すすきなど秋らしい木の実や草花について知っていることが少ない。また、過ごしやすい気候や旬の食べ物といった秋ならではのよさも捉えきれていないことが分かる。これは、秋の行事を体験したり、秋の自然物を使って遊んだりして触れ合う生活経験が少ないことが要因として考えられる。

以上から、本単元では、校庭や公園、身近な場所に出かけて秋探しをし、体全体を使って見つけた秋と触れ合う経験を十分にさせて、秋を感じ取らせたい。そこで得た、わくわくした気持ちや感動を制作や遊ぶ活動へとつなげていく。秋の自然物の特徴や、過ごしやすい気候といった秋ならではのよさを生かしながら活動することで秋を十分に満喫することができるようにしたい。

(3) 指導観

本単元では、校庭や公園、身近な場所で、木の実や落ち葉などで十分に遊びながら秋に親しみ、秋を楽しみながら、自然物を使って創り出す遊びの楽しさを味わえるようにすることを目指す。まず、身近にある秋に目を向け、校庭や公園、身近な場所などで秋探しの活動を行う。活動する中で、木の実や落ち葉など見つけた秋で直接遊ぶ体験をさせ、体全体を使って季節を十分に味わえるようにしていく。次に、その特徴やよさを生かした遊ぶものや飾るものなどをつくる活動へとつなげていく。見つけた秋や自分がつくりたい秋の作品をワークシートに表し、自分の思いを可視化することで、児童の思いや願いが明確となり、見通しをもって活動できると考える。また、遊ぶ場と制作する場に分けるなど、場の設定を工夫することで、児童が安全かつ集中して活動に取り組むことができるようにしたい。さらに、活動を重ねていく中で、秋の自然物を使って自分達が作ったものを誰かに伝えたい、一緒に遊びたいという思いが高まっていくと考えられる。これまでの経験から、こども園児に教えたいという願いをもつ児童が出てくることも予想される。その気持ちの高まりを生かし、園児を招待し、秋祭りを開催する。秋祭りの活動を通して、園児に教えたり、一緒に遊んだりすることができたという満足感や達成感をもたせ、自分の成長に気付かせていきたい。

4 単元の評価規準及び構成と評価の計画

(1) 評価規準

単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然のようすや夏から秋への変化がわかったり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やそのほかの季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使うものを工夫してつくったりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化に関心を持ち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしていたりしている。
小単元における評価規準	1			①秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、校庭や公園の秋の自然と触れ合おうとしている。
	2	①校庭の自然のようすが夏から秋になって変化したことに気付いている。	①夏の校庭のようすと比較しながら、秋の特徴を見付けたり、秋の自然と関わったりしている。	
	3			②秋を見付けたいという思いをもって、公園の季節の変化を探したり、秋の自然と関わったりしようとしている。

	4		②秋の自然の中で活動したことを振り返りながら、季節の変化や特徴について友達と伝え合っている。	
	5	②秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。	③比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫している。	③友達の意見を取り入れたり、自分の気付きとの違いを生かしたりして、遊びを創り出し、生活を楽しくしようとしている。
	6	③みんなで遊ぶことよきや、秋の自然物の特徴を生かしておもちゃをつくることの面白さに気付いている。	④みんなが楽しく遊べるようにルールや約束を工夫したり、相手に遊び方をわかりやすく伝えたりしている。	④楽しい秋祭りを開きたいという思いをもって、必要な役割を話し合ったり、協力して準備したりしようとしている。

(2)構成と評価の計画(17時間扱い)

小単元名(時数)		学習活動	知	思	態	評価方法
見 い だ す	1 あきはどんなきせつかな？(1)	・あきとなかよし大作戦を立てる。			①	・発言
	2 あきの校ていに出よう(2)	・校庭で秋探しを行う。		①		・行動観察 ・発見カード
・校庭マップを制作し、気付いたことを発表する。		①			・発見カード ・発言	
自 分 で 取 り 組 む	3 ちいきのあきがさがそう(2)	・公園や身近な場所に行き、変化を感じ取るとともに、夏から変わったところに気付き、秋らしいものを見付ける。			②	・行動観察 ・発見カード ・発言
	4 見つけたあきをつたえよう(1)	・校庭や公園、身近な場所で見つけたお気に入りの秋を紹介する。		②		・発言
	5 あきのおもちゃをつくってあそぼう(本時4/6)	・秋の自然物を使って、遊ぶものや生活に役立つものなど作りたいものをワークシートにかきイメージをつかむ。	②			・行動観察 ・ワークシート ・発言
		・決めたものを制作する。		③		・行動観察
		・作ったおもちゃで遊ぶ。	②			・行動観察
		・制作物を通して、次時の活動の見通しをもつ。		②		
・秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫してつくる。		③	③	・行動観察 ・ワークシート ・発言		
・秋の発表会をする。			③		・行動観察 ・発言	

広げ深める	6 みんなであきをたのしもう(5)	・秋祭りの準備をする。			④	・行動観察 ・発言
		・作ったもので遊んだり、発見したことを紹介したりするなどして、みんなで秋祭りを楽しむ。	③			・行動観察 ・発言
		・こども園児を招待し、作ったもので一緒に遊ぶ。		④		
まとめあげる		・自分たちの活動を振り返る。 ・自分の生活をより楽しくしていこうとする考えをもつ。	③			・ワークシート ・発言

5 研究の視点との関連

視点 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決するための「過程」を繰り返すことで、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成する。

4月に学習した「いくぞ!がっこうたんけんたい」の活動の中で、春の校庭を探検した。外で遊びながら生き物を見付けたり、五感を使って感じたりしたことを校庭マップに表し、春の特徴に気付いた。「なつとなかよし」では、校庭を探検し、春と夏の違いに気付き、見付けた夏を校庭マップに表し、夏の特徴を捉えてきた。さらに、夏の特徴を生かした遊びを考え、「つくる→試す・比べる→工夫する」という活動を積み重ねてきた。これを踏まえ、本単元の学習を通して、児童には生活をより楽しくさせたいという課題意識をもち、それを実現させるために必要な工夫や表し方を考え、表現できるようになってほしいと考える。

本単元の「あきとなかよし」では、秋の特徴を捉え、特徴を生かした作品を制作する。6つの小単元から構成されており、千葉県「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用して学習を進めていく。児童は、「見いだす」段階では、まず「あきはどんなきせつかな?」で、これまでの経験から秋について知っていることを発表し合い、秋の自然物を使って学習していく計画を立てる。次に「あきの校庭いに出てみよう」では、校庭で五感を使って秋探しをすることで、夏からの変化に気付くことができるよう、校庭マップを作成する。「自分で取り組む」段階では、「ちいきのあきをさがそう」で、夏に行ったすずかけ公園や身近な場所で、夏から秋になって変わったところを見付ける。

「見つけたあきをつたえよう」では、校庭や公園、身近な場所で見付けた木の実や葉などを比較し、秋を知る活動を行う。「あきのおもちゃをつくってあそぼう」では、校庭や公園、身近な場所で拾った秋の自然物を観察したり、触れ合ったりして、どんなものが作れるか考え、作ってみたいものを制作し、友達と楽しく遊ぶ。また、遊んだり、制作したりする過程を繰り返し、生活を楽しくできるように試行錯誤していく。「広げ深める」段階では、「みんなであきをたのしもう」で、今まで工夫しながら制作してきた作品を使って、友達や園児と秋を楽しむ活動を行う。「まとめあげる」段階では、これまでの活動を振り返る。これらの一連の学習を通して、自分の生活をより楽しくしていこうとする思いをもたせたい。

6 本時の指導(10/17)

(1) 本時の目標

比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等の基礎】

(2) 指導の重点

本時は、秋のものを使ってより生活が楽しくなるように、制作物を工夫したり、広げたりしていくことが求められる。そこで、児童の活動が充実するよう、以下の2点に留意して指導に臨む。

○児童にそれぞれの課題意識（思いや見通し）をもたせる。

児童が試行錯誤するためにも、遊びの面白さにひたるとともに、自然の不思議さや面白さに気付くことができるように課題意識をもたせることが大切である。そのために、導入部分では、前時で取り上げた教師の作品を見せる。また、ただ遊びを充実させるだけではなく、秋の自然に目を向けられるよう、掲示物や実物を使い、自然物の特徴を振り返る。制作したものや秋の自然物を実際に見せることで、児童のやってみてみたいという思いを高め、活動の見通しをもちやすくする。自然をより生かした遊びにつながるように自分の思いをしっかりともつことで、自分の生活をより楽しくするために工夫する姿が見られるであろう。

○試行錯誤しながら作品づくりに取り組ませる。

児童が課題に向かって試行錯誤しながら作品づくりに取り組むために、ワークシートの活用と場の設定の工夫をする。ワークシートは、導入で得た自分なりの思いや願いを可視化し、常に自分のゴールを見据えて活動するためのアイテムとしたい。また、友達の制作物のよいところや自分の制作物との違いを比べたり見付けたりして得た新たな考えを生かせるように、アイデアは付箋に書いてワークシートにつけるようにする。変えたい場合は、取って新たな付箋をつけるようにする。さらに、「見通す」「工夫する（つくる）」「試す（遊ぶ）」「比べる・見付ける」という試行錯誤の過程を児童の動きとリンクさせるため、「ワークシートにまとめる」「道具を扱う」「遊ぶ」「材料を置く」の4つの場に分ける。このことにより、児童はやるべきこと、したいことが明確になり、試行錯誤しやすくなり、安全かつ集中して取り組むであろう。

(3) 展開

過程	主な学習活動・内容(○) 予想される児童の反応(・)	時配 形態	指導上の留意点(○)と支援(※) 評価(◎)及び評価方法	教具 資料
見 い だ す	○前時の学習を想起する。 ・前より良くなってる。 ・どこが変わったのかな。 ・面白そうだな。 ・もっと面白くさせたいな。 ・どの秋のものを使おうかな。 ○本時のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。	5分 一斉 5分 一斉	○具体物を提示することで、前時の学習を想起し、本時への学習意欲を高め、活動の見通しがもてるようにする。 ○本時も秋の自然物を使って制作することを確認し、自然物のよさを生かした制作活動となるようにする。	教師の制作物 秋の自然物と掲示物 道具の使い方の掲示物
	あきのものをつかって もっとわくわくするものをつくろう。			
自 分 で 取 り 組 む	○制作に取り掛かる。 どんぐりごま ・どうやったらよく回るかな。 ・違うどんぐりにしようかな。 まつぼっくりけん玉 ・紐の長さを変えようかな。 ・大きさを試してみようかな。 おなもみのダーツ ・まとの大きさを試してみよう。 木の実マラカス	20分 個別	○「ワークシートにまとめる」「道具を扱う」「遊ぶ」「材料を置く」の4つの場でそれぞれ活動するように確認する。 ○きりやはさみ等の扱いに注意するように安全面に配慮する。 ○付箋に改良点をかいて、ワークシートに貼らせる。改良点を変えたい場合は、新たな付箋を貼り重ねていくことで思考過程を残す。	ワークシート 付箋 共通で使える材料 (秋の素材、身の回りの物) きり

	<ul style="list-style-type: none"> ・音を変えたいな。 ・木の実の量を変えてみようかな。 <p>秋の実飾り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う木の実を付けてみよう。 ・葉っぱも付けてみよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ○共通で使える材料を用意し、自由に使えるようにしておく。 ※活動の中で困ったり迷ったりしたときは、改良のヒントを得られるように、友達の作品を見てもよいことを伝える。 ○付箋での付け足しやワークシートにまとめる作業が終わった児童には、それぞれ制作活動に取り組むように声を掛ける。 ○試行錯誤して制作に取り組んだり、よいつぶやきをしたりしている児童を称賛する。 ◎【思】比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫している。 (行動観察・ワークシート・発言) 	はさみ ボンド のり 工作マット
広 げ 深 め る	<ul style="list-style-type: none"> ○活動したことを発表する。 ・どんぐりの大きさを変えたら、よく回るようになったよ。 ・的を大きくしたら、たくさんおなみがつくようになったよ。 ・入れるものを変えたら、きれいな音になったよ。 ・もっといろいろな大きさの木の実をつなげたい。 ・部屋に飾ってみたいな。 	10分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の制作した作品を大きな画面で見られるようにする。 ○どのような工夫をしたり、変えたりしたのかを発表できるようにする。 ※自分なりに工夫できたことを称賛する。 	モニター タブレット ワークシート
ま と め あ げ る	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の振り返りをし、次時の予告をする。 ・次の時間、完成しそうでわくわくする。 ・他にもつくってみたくなったな。 	5分 個別	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードで今日のわくわく度を自己評価させる。 ○友達のがんばりやよさにも目を向けさせることで、次時への見通しをもたせる。 	振り返りカード

第4学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 佐藤 章雄

1 単元名 よりよい町づくり大作戦！！

2 単元の目標

自分が生活している地域のよさや問題点を見付けることを通して、睦沢町の福祉の実態とそれに携わる人々の思いや組織について理解し、地域の一員として、よりよい町にするために自分たちにできることを考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができる。

3 単元設定の理由

(1) 学びのつながり

児童は、第3学年の「睦沢はすてきなところ」では、睦沢町の特産物に目を向け、それらの魅力を様々な人たちに発信するプロジェクトを実践した。そこでは、睦沢町の特産物について調べ、生産者等にインタビューして詳細な情報を収集したり、思いを反映させたりして睦沢町の魅力としてまとめ、地域に向けて発信した。その過程で、生産者等から直接話を聞くことのよさや、収集した情報を整理して何を発信するか考えることの難しさを経験するとともに、それらの特産物への思いを一層強くした。

これを踏まえ、今年度は道徳科や社会科の学習と関連させ、「睦沢を住みやすい街に」として、「福祉」に視点を置き、だれもが住みやすく、安心して生活できるよりよい町づくりについて考えたり、そのために自分ができることを実行したりと、地域の一員として社会参画する気持ちを育てていきたい。

この学習は、第5学年の「睦沢の魅力を発見しよう」として「わが町の稲作、PR大作戦！」へとつながっていく。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、総合的な学習の時間に積極的に取り組んでおり、設定されたテーマについてインターネットや図書等を活用して情報を集めたり、グループの仲間と話し合ってまとめ、発表したりすることができる。一方で、集めた情報を精選したり関連付けたりすることに課題がある。実態調査（令和6年7月8日、23名に実施）の結果からは、全ての児童が「睦沢町が好きだ」「町のために自分にできることをしたい」と考えており、これまでの地域との関わりの成果が表れていると考えられる。一方で、およそ92%の児童が「福祉についてあまり知らない」「福祉の施設について知らない」と回答していた。これは、「福祉」という言葉は聞いたことはあるが、具体的にどんな意味なのか知らなかったり、施設を利用するときに考えなかったりしたことが要因として考えられる。

これらの実態から、本単元では、まず、福祉について調べ学習や体験等の活動を通して、福祉の意味や施設を利用する時の留意点について考えさせる。それから、調べた情報について、同じテーマで活動している他グループと考えを共有し、情報の比較・分類・関連付けなどを行いながら思考できる活動を取り入れていきたい。また、思考ツールを活用し、児童自身が自分の考えを整理・分析できるようにもしていきたい。さらに、地域の人材を積極的に活用し、連携を深めることで児童が探究的な学びを深められるようにしていきたい。そして、睦沢町を誇りに思い、主体的に町づくりに関わろうとする態度や意欲を育てていきたい。

(3) 教材について

睦沢町は、美しい田園風景と里山が広がる温かい雰囲気を持ち、歴史的建造物や文化的遺産も多い。町は、住みやすい環境づくりを促進すべく、高齢者や障害者への福祉の充実に取り組んでいる。

これらについて調べ、携わる人々の思いに触れることで、自分たちの生活と関連付けて考え、地域の一員としての考えを発信することが期待できる。本単元は、「睦沢を住みやすい街に」をテーマに「福祉」に目を向けるようにし、その状況を知るとともに、よりよい町づくりのための様々な取組とそれに携わる人々の思いを理解することで、自分たちの生活と関連付けて考えられるようにしたい。また、自分事として考えることが、地域の活性化やよりよい町づくりにつながるということ

を捉えるように指導する。そのために、地域の人々の協働的な学びを通して、地域の人との関わりの中に自分自身ができることを見付けられるようにし、町に住む誰もがぐらしやすいよりよい町にするにはどうしたらよいかを児童が考え、ともに生きる社会について地域に発信していきたい。

4 単元の評価規準及び構成と評価の計画

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①福祉の視点に沿った町づくりのための様々な取組と、それに携わる方々の思いがあることを理解している。</p> <p>②福祉に関する情報を収集したり、整理・分析したりするなど、探究の過程に応じた技能を身に付けようとしている。</p> <p>③自分たちの関わりが地域の活性化やよりよい町づくりにつながるということの理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①地域の福祉への関わりを通して感じた関心をもとに、課題をつくり、解決の見通しをもっている。</p> <p>②よりよい町づくりの活動に必要な情報を、様々な方法で集めている。</p> <p>③よりよい町づくりに向けて、集めた情報を整理・分析している。</p> <p>④よりよい町づくりに向けた取組について、相手や目的に応じてグラフや図、写真等を使って効果的に分かりやすく表現している。</p>	<p>①よりよい町づくりに向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。</p> <p>③地域の人との関わりの中で自分にできることを見付けようとしている。</p>

(2) 構成と評価の計画 (60時間扱い)

	過程	小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
ふれる	課題の設定	1 「福祉」とは何だろう。 (3)	・福祉について、イメージマップを用いて、自分の考えやイメージを広げ課題を設定する。		①	①	・ワークシート ・イメージマップ
	情報の収集	2 「福祉」についてもっと知ろう。 (10)	・福祉についてインターネットや図書資料などで情報を収集したり、「車いす・高齢者疑似体験」や「手話体験」をしたりする。	②	②		・ワークシート
	整理・分析	3 「福祉」を見直そう。 (4)	・福祉について調べたり、体験したりして自分の考えをもつとともに、社会福祉協議会の方との対話を通して、福祉に対する考えを深める。	②	③	②	・ワークシート ・行動観察
	まとめ・表現	4 「福祉」についてまとめよう。 (3)	・これまで情報収集したり、整理・分析したりしたことや体験したことをワークシートにまとめるとともに、自分がやりたいことを考える。	①		③	・ワークシート

選ぶ	課題の設定	5 睦沢町にはどんな福祉があるのだろうか。(8)	・自分がやりたいことに対して課題点を明らかにするとともに、取り組みたいテーマを決める。地域で活動している人たちから情報を集める。		①		・発言 ・ワークシート ・計画書
	情報の収集	6 立てた計画をもとに調べる。(15)	・睦沢町の福祉施設を利用する高齢者等からよりよい町づくりについて情報を収集する。 ・見学や体験を通して情報を集める。	①	②	②	・ワークシート ・行動観察
	整理・分析	7 よりよい町づくり作戦会議をしよう①(本時3/5)	・これまで収集してきた情報をよりよい町づくり作戦会議に向けて整理・分析をし、互いの進捗状況について話し合う。		③	②	・発言 ・制作物
	まとめ・表現	8 よりよい町づくり作戦会議をしよう②(2)	・よりよい町づくり作戦会議で、互いの活動の成果を報告し合う。		④	②	・行動観察
・よりよい町づくり活動に関わった地域の方々から評価を受ける。					③	・行動観察	
深める	課題の設定	9 よりよい町づくりのために何ができるか考えよう。(2)	・よりよい町づくり作戦会議で明らかになった課題について話し合う。 ・「よりよい町づくり大作戦!!」のために何ができるのかを話し合う。		①	①	・ワークシート
	情報の収集	10 表現する方法を調べよう。(1)	・「選ぶ」段階で収集した情報について見直す。		②		・ワークシート ・行動観察
	整理・分析	11 活動したことを整理・分析しよう。(2)	・得た情報から報告したい内容について、テーマごとに整理・分析する。		③	②	・ワークシート ・行動観察
	まとめ・表現	12 ぼくたちわたしたちにできることを発信しよう。(5)	・誰にどのように伝えればよいのか考え、まとめる。	③	④		・制作物 ・行動観察
・「よりよい町づくり大作戦!!」を執行する。					③	・制作物 ・行動観察	
・「よりよい町づくり大作戦!!」で行った活動を3年生や保護者、地域のお年寄り等に伝える。				④		・制作物 ・行動観察	
		・本単元で学んだことを、今後の生活にどのように生かすのか考える。			③	・ワークシート	

5 研究の視点との関連

視点 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決するための「過程」を繰り返すことで、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成する。

本単元を通して、睦沢町を誰にとっても住みやすく、よりよい町にするために、自分たちにできることを考えたり、行動したりすることができるようになってほしいと考える。

これまで児童は、「ふれる」段階で、福祉について調べ学習や体験等の活動でつかんだ概要をワークシートにまとめて発表会を行った。そこでは、「車いすの人たちは、でこぼこしている道があったら大変だ。」「足が不自由な人の気持ちがわかった。」「目が見えないって怖い。」など、車いすに乗って生活している人や目が不自由な人の気持ちを考えることができた。また、だれに対しても思いやりをもって接することが大切であるということに気付いてきた。そこから、さらに追究したいテーマを「選ぶ」段階へとつなげ、それぞれが立てた計画に基づいて活動する。地域のお店や役場、高齢者の方々にインタビューしたり、現場を調査したりして情報を集め、それぞれが考えた方法で活動する。「ここに点字ブロックがあった方がいいのではないか」「車いすを使用しているでも取れるトレイがお店にあった方がいいのではないか」「運転免許証を返納してもできるだけ自由に外出できる環境を整えたい」といったよりよい町づくりへの要望をもち、自分たちに何ができるのか作戦会議を立てる。それらを生かし、「深める」段階では、それを町へ要望したり、施設へ行き、高齢者を楽しませたりする等、具体的な活動を通してまとめを行う。さらに、3年生や保護者、地域のお年寄りを招き、「よりよい町づくり」に向けた発表会を開催することで表現し、一連の活動を振り返って締めくくりたい。

6 本時の指導（46／60）

（1）本時の目標

調べたり、体験したりしてきた成果や課題を共有し、相手の立場を考えながらよりよい町づくり作戦会議に向けて整理・分析することができる。 【思考力、判断力、表現力等】

（2）指導の重点

本時は、「よりよい町づくり作戦会議」に向けて活動報告会の内容をより充実させるために、内容の精選やまとめ方について考える。それが促されるようにテーマが異なるグループ同士で互いの成果について話し合わせる。これが充実するよう、以下の2点に留意して指導に臨む。

○話し合う視点を与える。

よりよいアドバイスをする視点として、「どのように、なぜ」、聞く視点として、「メモを取りながら、短い言葉で、話の中心をまとめて」など、話し合う視点を明確にすることで、本時の目標に沿った話し合いが展開されるのではないかと考える。また、アドバイスがしやすいように、「よりよい内容にするためのチェックリスト」を配付する。

○話し合いで見出した問題点をKWLシートを参考にしたオリジナルシートに整理させる。

他のグループから指摘されたことや自分たちで気付いた問題点、相手に伝えたいことなどを一つのカードに記載することで、それらを関連付け、適切な対応が考え易くなるであろう。児童は、資料を確認したり、何を伝えたいのか筋道を考えたりして、テーマについての理解を一層深めると考える。

(3) 展開

主な学習活動・内容 (○) と 予想される児童の反応 (・)	時配 形態	指導上の留意点 (○) 評価 (◎) 及び評価方法	資料
<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○活動の見通しをもつ。</p> <p>○学習課題を確認する。</p>	<p>5分 一斉</p>	<p>○各グループに、前時までの活動 (KWLシート) で共通理解したことを確認させる。</p> <p>○本時ねらいを確認し、見通しをもたせる。</p>	<p>掲示物 オリジナルシート 付箋</p>
<p>KWLシートを使って「よりよい町づくり作戦会議」を成功させよう。</p>			
<p>○グループで、成果や課題について確認して、他のグループにアドバイスを する。</p> <p>○他のグループのアドバイスを受けて付箋に学んだこと (L) を書く。</p>	<p>20分 グループ</p>	<p>○視点に沿った話し合いが進められているかチェックリストを使って確認させる。</p> <p>○グループの友達に分かるように、自分の考えに理由や事例などを加えて伝えるように助言する。</p> <p>○話し合いがうまく進まないグループには、教師が視点を確認しながら話し合うように促す。</p> <p>○自分の考えをKWLシートによって振り返るように助言する。</p> <p>○話し合った内容をKWLシートによってまとめさせる。</p> <p>○まとめ方が分からないグループは、前時までの掲示物によってKWLシートの使い方を振り返らせる。</p> <p>◎【思】調べたり体験したりしてきた成果や課題を共有し、相手の立場を考えながら「よりよい町づくり作戦会議」に向けて整理・分析することができる。(発言)</p> <p>○早めに話し合いが終わったグループには、報告する際の準備をさせる。</p>	<p>チェックリスト</p>
<p>(予想される内容)</p> <p>【Aグループ店・役場チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここには、段差があって大変らしいけど、何かできることはあるかな。 ・店の中まで進むのに、段差があって大変だったよ。何か工夫することはできないかな。 ・こんな感じで役場の人に伝えると話を聞いてくれるんじゃないかな。 <p>【Bグループ高齢者施設チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌って元気にさせたいな。何かいい歌はあるかな。 ・わかりやすい曲の方がいいよ。 ・高齢者の立場に立つとどんな歌がいいかわかってくるよね。 	<p>15分 一斉</p>	<p>○話し合ったことを報告する。</p> <p>○話し合った内容や、今後の活動についてグループごとに報告する。</p> <p>○グループごとの話し合いの内容、今後の活動に必要なものなどを共有する。</p> <p>○今後の学習活動につながるような声掛けをし、子どもたちの課題解決の意欲を喚起する。</p> <p>○他のグループの発表を聴くことで、自分たちにも取り入れられそうなものや内容があれば、次回からの活動の参考にさせる。</p> <p>○報告の視点を与え、分かりやすい報告になるように助言する。</p> <p>○他のグループへ質問や意見があれば積極的に発言させ、よりよい活動ができるように促す。</p>	<p>オリジナルシート</p>
<p>(児童)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことで新しい発見がありました。Aグループの○○を参考に修正したいと思います。 ・相手の立場に立った内容を考えることができました。 			

<p>○本時の学習を振り返る。 ○振り返りシートに今日の学習の振り返りを記入する。</p>	<p>5分 一斉</p>	<p>○なかなか報告することができないグループには、話し合っただけだと思ったことを一言でも発表できるように助言する。</p> <p>○今回話し合った内容を改めて確認することで、今後の活動に見通しをもって取り組めるように助言する。</p> <p>○振り返りシートを活用することで、一人一人が今日のめあてに対する振り返りと次時への課題を確認できるようにする。</p>	
---	------------------	---	--

第5学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 新田 さやか

1 単元名 わが町の稲作、PR大作戦！

2 単元の目標

地域の稲作について調べたり、むつぎわ米に携わる人々と協働して取り組んだりする活動を通して、むつぎわ米に関する具体的な取組について考え、稲作を続ける人々の意図や願いについて理解するとともに、わが町の稲作とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。

3 単元設定の理由

(1) 学びのつながり

児童は、第4学年で「睦沢をすみやすい街に」のテーマの下、「よりよい町づくり大作戦！」を展開した。睦沢町の防災・福祉・環境に目を向け、よりよい町づくりに向けた取り組みを様々な人たちへ発信するプロジェクトを実践した。そこでは、睦沢町の防災・福祉・環境について調べ、体験活動をしたり、それらに携わる方々にインタビューして詳細な情報を収集したりしてよりよい町づくりに向けて自分たちができることを実践し、地域に向けて発信した。その過程で、それぞれの分野の専門的な方々から直接話を聞いたり体験したりすることのよさや、収集した情報を分析することの難しさを経験するとともに、自分たちが町のためにできることについて考えた。

これを踏まえ、今年度は「睦沢の魅力を発見しよう」のテーマの下、「わが町の稲作、PR大作戦！」を展開する。社会科の学習と関連付けながら、視点を睦沢町の稲作に置き、睦沢町と稲作とのつながりについて地域の方と協働的に学び、それらを広くPRする活動を通して自分たちができることについてより深く考えさせたい。

そして、第6学年では「未来の睦沢を考えよう」のテーマの下、「睦沢の魅力、PR大作戦！」へと繋げていく。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、総合的な学習の時間に積極的に取り組んでおり、設定されたテーマについてインターネットや図書等を活用して情報を集めたり、グループの仲間と話し合ってまとめ、発表したりすることができている。一方で、収集した情報を関連付けたり構造化したりすることに課題がある。実態調査（令和6年6月27日、23名に実施）の結果からはおよそ95%の児童が「睦沢町が好きだ」と考えており、これまで睦沢町を題材とした探究的な活動を続けてきた成果が表れていると考えられる。また、およそ86%の児童が「地域を良い場所にするためにがんばりたいと思う」と考えており、自分たちにも何かできるのではないかと町づくりへの意欲が高まっていると考えられる。一方で、「わたしは地域で自分なりに活やくできると思う」と考えている児童はおよそ45%、「わたしは、地域社会をよりよくすることができると思う」と考えている児童はおよそ58%に留まっている。自分たちの活動が睦沢町をよりよくしているという自己有用感が低いことが要因として考えられる。

実態調査②（令和6年9月10日、23名に実施）において、「睦沢町といえばなんですか」という質問に対して「お米」と回答した児童は12名と一番多くなっており、児童が睦沢町のお米に誇りを持っていることが感じられる。また、およそ88%の児童が「家庭でむつぎわ米を食べたことがある」と回答しており、およそ83%の児童は「むつぎわ米が好きだ」と回答していることから、児童の生活におけるむつぎわ米との結び付きが感じられた。

これらの実態から、本単元では、児童も関心をもっている睦沢町の稲作について調べ、気付いた稲作のよさや魅力などを校内だけでなく、地域に発信することで、地域のために役立ったという経験が伴った授業を実践していきたい。

(3) 教材について

睦沢町は、美しい田園風景が広がっており、睦沢町で作られたお米は農薬や化学肥料の使用を通常の半分以下に減らし、千葉県のエコ農産物にも認定されているお米となっている。「安全、安心、おいしい！」の三拍子がそろった自慢のお米として、町の特産物の一つである。町には稲作に関するボランティア団体である「山田会」や田植え時に踊る「佐貫季寄せ」の伝統文化を守る団体など稲作に携わる人々がいる。

これらについて調べることで、睦沢町の稲作や地域の農業について関心を高め、地域の稲作に誇りをもつことが期待できる。また、稲作に携わる人々の思いにふれることで、睦沢町の稲作をより身近に感じ、自分たちの生活と関連付けて考えられるようにしたい。地域の方との協働的な学びを通して、児童一人一人が地域の一員として睦沢の稲作の魅力について考え、発信することができるようにしていく。

4 単元の評価規準及び構成と評価の計画

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の農業のよさと課題、携わる人々の願いを理解している。 ②活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらかつてまとめる方法が分かっている。 ③地域の農業に対する自らの認識の高まりは、生産者の願い等について探究的に学んできたことによる成果であることに気付いている。	①地域の農業への関わりを通して感じたことをもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ②課題解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、蓄積している。 ③必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したりしながら課題解決に向けて考えている。 ④相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	①課題解決に向け、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②探究活動を通して、自分のよさや他者のよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。 ③地域との関わりの中で、自分にできることを見付け、実践しようとしている。

(2) 構成と評価の計画（60時間扱い）

	過程	小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
ふれる	課題の設定	1 稲作とは何だろう。（1）	・田植え体験をきっかけに稲作について、ウェビングを用いて、自分の中のイメージを広げ課題を設定する。		①		・ワークシート
	情報の収集	2 お米についてもっと知ろう。（7）	・お米についてインターネットや図書資料などで情報を収集する。 ・バケツ稲の観察をする。		②	①	・ワークシート ・観察カード
	整理・分析	3 伝えたいことを決めよう。（2）	・調査し集めた情報を中から、新聞で伝えたいことを一つ決め、テーマごとにグループを作る。		③		・ワークシート
	まとめ・表現	4 稲作新聞を作ろう。（4）	・これまで情報収集したり、整理・分析したりしたことや観察したことを通して、伝えたいことを新聞にまとめる。 ・新聞発表会を行い、自分の考えをまとめ、伝える。	①	④		・壁新聞 ・壁新聞 ・行動観察

選ぶ	課題の設定	5 睦沢町とお米の関わりを考えよう。(8)	・調べてきたことを参考に睦沢町のお米について知っていることを話し合う。		①		・ワークシート
			・稲刈りをする。 ・地域の方々にインタビューし睦沢米の魅力や願い、現状などを聞く。	①	②		・ワークシート
			・体験を通して明らかになったことを整理し、睦沢町とお米についてもっと調べてみたいテーマを決める。	①			・ワークシート
			・選んだテーマごとに今後の活動への見通しをもつ。		①		・ワークシート
選ぶ	情報の収集	6 見通しを基に調べよう。(14)	・地域の方と関わりながら協働的に活動する。 ・アンケート調査を用いて情報を収集する。 ・個人インタビューをする。		②		・ワークシート ・アンケート用紙 ・行動観察
		7 稲作の魅力を考えよう。(本時1/2)	・調査したことやインタビューしたこと等を整理し、活動報告会で伝えたいことを決める。		③		・ワークシート
選ぶ	まとめ・表現	8 報告会をしよう。(4)	・伝えたいことをまとめる。	②			・制作物
			・協力してくれた地域の方や保護者の方を招待し、活動報告をする。	③	④		・制作物 ・行動観察
深める	課題の設定	9 もっと広めよう。(1)	・より多くの人にPRするためにはどうしたらよいか考え、計画を立てる。	①			・ワークシート
	情報の収集	10 PRの方法を考えよう。(5)	・PRするためのまとめ方や手段について調べる。 ・町役場の人にPRの方法についてインタビューする。		②		・ワークシート ・行動観察
	整理・分析	11 PR方法を決めよう。(2)	・自分たちの伝えたいことに合うPR方法を決める。		③		・ワークシート
	まとめ・表現	12 PR大作戦を実行しよう。(10)	・自分たちの考えたPR作戦を実行する。		④	③	
・単元の学習を振り返り、睦沢町の稲作と自分たちの生活との関わりについてまとめる。			③			・ワークシート	

5 研究の視点との関連

視点 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決するための「過程」を繰り返すことで、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成する。

本単元を通して、睦沢町の稲作の魅力を探究し続け、地域のことを考え、地域のために行動できるような児童の育成を目指す。

これまで児童は、「ふれる」段階で、お米の実態について関心をもち、調べ学習や体験等の活動でつかんだ概要を新聞にまとめて発表した。そこから睦沢町の稲作に着目し、追究したいテーマを「選ぶ」段階へとつなげ、グループ毎に立てた計画に基づいて活動する。追究したい事柄について、携わる方にインタビューしたり、学校や家庭でアンケートを実施したりして情報を集める。活動の中で児童はインターネットや図書資料で調べるだけでなく、地域の方々と協働して活動することにより、学びが深まることが予想される。その後、収集した情報を整理・分析し、プレゼンテーションや新聞などを作って睦沢町の稲作の魅力をもとめていく。活動報告会では、友達や保護者、お世話になった地域の方々に伝えることで、睦沢町の稲作の魅力をもっと広めたいという思いをもたせた。「深める」段階では、地域との関わりの中で見出した睦沢町の稲作の魅力を広く発信するための方法を考え、実行していく。地域活性化を図っていく活動を通して、町のために自分たちができることを考えさせたい。最後に地域の農業についての自らの思いや考え、自身の成長を振り返り、活動のまとめとする。これらの活動を通して、地域について考え探究し続ける児童の育成を目指す。

6 本時の指導 (37/60)

(1) 本時の目標

活動報告会をするために、集めた情報を整理して分析することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 指導の重点

本時は、報告会で何を伝えるのかについて考える。ここでは、目的に沿って収集した情報を取捨選択することが求められる。そこで、これまで体験したりインタビューをしたりして分かったことをグループで話し合わせる。これが充実するよう、以下の2点に留意して指導に臨む。

○報告会のための話し合いであることを意識させる。

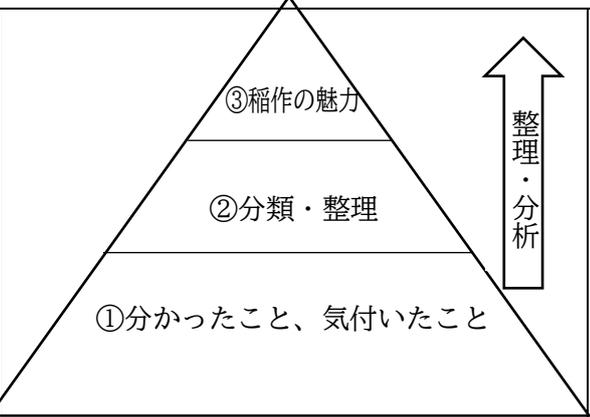
これまでの活動で分かったことを保護者やお世話になった方に伝えるという相手意識を児童にもたせ、筋の通った話し合いに向かわせたい。そのために、導入で誰に伝えるのかを確認することで、相手を意識した話し合いへとつなげることができるように考える。

○収集した情報をピラミッドチャートで整理させる。

収集した情報を下層から上層に向かって段階的に絞り込んでいくことで、根拠に基づいた話し合いになるであろう。児童は、なぜこれを伝えたいのか考えたり、話し合ったりして、収集した情報を整理することで、伝えたいことを決定することができるように考える。

(3) 展開

主な学習活動・内容 (○) と 予想される児童の反応 (・)	時配 形態	指導上の留意点 (○) と 評価 (◎) 及び評価方法	資料
○前時までの学習を振り返る。 ・インタビューしたね。 ・睦沢米を食べたね。 ○学習課題を確認する。	5分 一斉	○これまでの活動を振り返る。 ○報告会に来てくれる地域の方や保護者を想起させ、相手意識をもたせる。	写真
睦沢町の稲作の魅力を考えよう。			
○話し合いの手順を確認する。 ①これまで活動したり、インタビューしたりして分かったことや気付いたことを「ふせん紙」に書き、下段に貼る。	8分 一斉	○思考ツールに、ピラミッドチャートを用いることを確認する。 ○下の段に収集した情報をふせん紙に書いて貼り、そのふせん紙を上を移動させることで順序付けをする。	ピラミッド チャートの 説明図

<p>②ふせん紙を分類・整理して、分かったことを中段にまとめる。(下段より中段の「ふせん紙」が少なくなるようにする。)</p> <p>③中段にまとめて分かったことをもとに睦沢町の稲作の魅力を考える。</p> <p>④上段に中段で話し合った稲作の魅力を書き、選んだ理由を明確にする。</p>			
<p>○睦沢町の稲作の魅力をピラミッドチャートを用いて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睦沢米はもちもちしていたね。 ・土づくりを工夫していたね。 ・農薬をあまり使わないようにしていたね。 ・愛情がたくさんこもっていたね。 	20分 グループ	<p>○収集した情報を付箋に書くときは、ファイル等を見ながら書いてもよいと伝える。</p> <p>○これまでの活動を振り返り、ふせんにかけている児童を称賛する。</p> <p>○ふせん紙を選び、移動させる場合、なぜそう考えたのか理由を付けて発表するように伝える。</p> <p>○リーダーを中心に話し合わせる。</p> <p>○全員が意見をもって話し合いに参加できるようにする。</p> <p>◎【思】活動報告会をするために、集めた情報を整理・分析して睦沢町の稲作の魅力を話し合っている。(発言・ワークシート)</p>	画板 ピラミッド チャート
<p>○グループごとに整理・分析してまとめた稲作の魅力で伝えたいことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりが魅力だと思います。 ・睦沢町にあった品種が魅力だと思います。 ・たくさんの人の思いがこもっているのが魅力だと思います。 	10分 一斉	<p>○ピラミッドチャートを使って各グループで話し合われた内容を発表させる。</p>	
<p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふせんを移動するときは理由をつけていうことができた。 ・報告会で伝えることをみんなで話し合って決められた。 	2分 個別	<p>○ワークシートに、本時の学習の振り返りを書かせ、次時の見通しをもたせる。</p>	

VI

大会運営関係資料

令和6年度 睦沢小学校校内研修名簿

校長 塩田 茂嗣
 教頭 田邊 佳之
 教務 河端 真秀

生活科部会

河端 真秀
 石井 真理子 ◎ 授業者 7月 1日
 御園生 恵子
 原 由美子
 金綱 裕子
 喜多見 花帆 授業者 11月 28日
 鶴岡 裕子

総合的な学習の時間
 中学年部会

田邊 佳之
 佐藤 章雄 ◎ 授業者 11月 28日
 小出 容子
 丸鳶 茂文
 河野 美樹 授業者 7月 1日
 関 雅仁
 吉井 勇
 木原 なつみ

総合的な学習の時間
 高学年部会

塩田 茂嗣
 今井 由記子 ◎
 芝田 稔弘
 秦 隆之介 授業者 7月 1日
 長谷川 恵太
 新田 さやか 授業者 11月 28日
 伊丹 大治
 渡邊 貴理

令和6年度 大会実行委員名簿

実行委員長	塩田 茂嗣	睦沢町立睦沢小学校
事務局長	関 智之	一宮町立一宮小学校
副事務局長	森 俊光	茂原市立五郷小学校
事務局	吉森 尚子	茂原市立茂原中学校
事務局	村杉 未羽	一宮町立一宮小学校
運営部長	小出 健	茂原市立中の島小学校
運営副部長	田邊 佳之	睦沢町立睦沢小学校
運営副部長	若菜 秀紀	茂原市立早野中学校
運営部	森川 珠美	茂原市立東郷小学校
運営部	中島 憂香	茂原市立萩原小学校
運営部	中村 智子	茂原市立南白亀小学校
運営部	渡邊 志乃	茂原市立茂原小学校
運営部	永野 和哉	長生村立八積小学校
運営部	吉野 直美	茂原市立東部小学校
運営部	鬼嶋 桃花	白子町立白湊小学校
運営部	磯野 有希	長生村立高根小学校
運営部	中工 亜希乃	茂原市立東中学校
運営部	井下田 千尋	茂原市立東中学校
運営部	吉永 浩嗣	茂原市立本納中学校
運営部	佐藤 亜佑奈	長生村立高根小学校
運営部	須藤 三起子	茂原市立茂原小学校
研修部長	樋口 陽樹	一宮町立東浪見小学校
研修副部長	船見 ゆか	茂原市立東部小学校
研修部	渡邊 貴理	睦沢町立睦沢小学校
研修部	佐藤 章雄	睦沢町立睦沢小学校
研修部	中村 喜子	長南町立長南小学校
研修部	小関 かずさ	長生村立長生中学校
研修部	藤田 花菜子	茂原市立西小学校

おわりに

はじめに、睦沢町立睦沢小学校にて、県内各地から多くの先生方をお迎えし、本研究協議会を開催できましたことを、心より喜ばしく思います。

本研究協議会では、「はばたけ!未来を創る子どもたち」～探究を見つめなおし 探究を創造する～の県研究主題を受け、長生教育研究会生活科・総合的な学習部会において、「人・もの・ことに積極的に関わり、未来に向かって学び続ける子どもの育成」を研究主題に掲げ、睦沢小学校が中心となり、探究のプロセスを発展的に繰り返していくことを重視した授業実践に取り組んできました。睦沢町を学習の素材とする授業は、子どもたちの学習意欲を高めたり、今日的課題を自分事として捉えさせたりすることにおいては効果があると実感しております。さらに、地域の方々と協働的な探究活動を展開していくことは、探究課題の解決につながり、子どもたちの深い学びを実現していくこととなります。

本研究大会の開催にあたり、多くの方々のご協力とご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。特に、貴重なご意見やご指導をいただいた東上総教育事務所指導室指導主事の皆様、そしてご参加いただいた全ての皆様にこの場を借りて深くお礼を申し上げます。本研究大会に参加していただいた皆様におかれましては、これまでの研究過程と授業展開について、御批正、御示唆をいただければ幸いです。

今後とも、本部会の取組が、県内の多くの皆様の参考にしていただけるものとなるよう、引き続きご指導をお願い申し上げます。

感謝の念を込めて、編集後記とさせていただきます。

令和6年度

千葉県教育研究会生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会長生大会

令和6年11月20日発行

編集・発行

千葉県教育研究会生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会長生大会実行委員会

